令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

14節 維持補修工 参考資料－2 ペトロラタム被覆 P3-14-(6)

現行（令和７年度）

②鋼矢板・鋼管矢板　足場設置撤去　　100ｍ当り

名　称	形　状　寸　法	単位	数　量	摘　要
コンクリートアンカー	φ16mm，L＝60mm	本	111	
鋼　製　足　場	鋼製軽量足場板 B＝0.24m,L＝4m	枚	56	
丸パイプ賃料	φ48.6mm，肉厚2.4mm	m	944	
クランプ賃料	直交	個	611	
足場設置撤去	クレーン抜き	m	100	市場単価
クレーン付トラック	４ｔ積2.9ｔ吊	日	3.9	標準運転時間

注）1.本歩掛は、護岸、係船岸の鋼矢板・鋼管矢板の防食工に適用する。
　　2.現場条件等により足場構造に変更がある場合、別途積算する。

(2) 下地処理（かき落とし）　　100ｍ²当り

名　称	形状寸法	単位	数　量		摘　要
			鋼管杭	鋼矢板・鋼管矢板	
かき落とし	クレーン抜き	㎡	100	100	市場単価
クレーン付トラック	4t積2.9t吊	日	3.6	3.6	標準運転時間

(3) 被覆防食　　100ｍ²当り

名　称	形　状　寸　法	単位	数　量		摘　要
			鋼管杭	鋼矢板・鋼管矢板	
防食材料		㎡	100	100	
被覆防食	クレーン抜き	㎡	100	100	市場単価
ｸﾚｰﾝ付ﾄﾗｯｸ	４ｔ積2.9ｔ吊	日	10.6	6.7	標準運転時間

(4) 端部処理　　100ｍ当り

名　称	形　状　寸　法	単位	数　量		摘　要
			鋼管杭	鋼矢板・鋼管矢板	
端部処理	クレーン抜き	m	100	100	市場単価
ｸﾚｰﾝ付ﾄﾗｯｸ	４ｔ積2.9ｔ吊	日	5.5	2.9	標準運転時間

改定（令和８年度）

②鋼矢板・鋼管矢板　足場設置撤去　　100ｍ当り

名　称	形　状　寸　法	単位	数　量	摘　要
コンクリートアンカー	φ16mm，L＝60mm	本	111	
鋼　製　足　場	鋼製軽量足場板 B＝0.24m,L＝4m	枚	56	
丸パイプ賃料	φ48.6mm，肉厚2.4mm	m	944	
クランプ賃料	直交	個	611	
足場設置撤去	クレーン抜き	m	100	市場単価
クレーン付トラック	４ｔ積級、2.9ｔ吊	日	3.9	標準運転時間

注）1.本歩掛は、護岸、係船岸の鋼矢板・鋼管矢板の防食工に適用する。
　　2.現場条件等により足場構造に変更がある場合、別途積算する。

(2) 下地処理（かき落とし）　　100ｍ²当り

名　称	形状寸法	単位	数　量		摘　要
			鋼管杭	鋼矢板・鋼管矢板	
かき落とし	クレーン抜き	㎡	100	100	市場単価
クレーン付トラック	4t積級、2.9t吊	日	3.6	3.6	標準運転時間

(3) 被覆防食　　100ｍ²当り

名　称	形　状　寸　法	単位	数　量		摘　要
			鋼管杭	鋼矢板・鋼管矢板	
防食材料		㎡	100	100	
被覆防食	クレーン抜き	㎡	100	100	市場単価
ｸﾚｰﾝ付ﾄﾗｯｸ	4t積級、2.9t吊	日	10.6	6.7	標準運転時間

(4) 端部処理　　100ｍ当り

名　称	形　状　寸　法	単位	数　量		摘　要
			鋼管杭	鋼矢板・鋼管矢板	
端部処理	クレーン抜き	m	100	100	市場単価
ｸﾚｰﾝ付ﾄﾗｯｸ	4t積級、2.9t吊	日	5.5	2.9	標準運転時間

コメント

機械器具等損料改定に伴う変更

15節 構造物撤去工 P3-15-9

現行（令和７年度）

３－２－５　作業船・機械の組合せ

1）陸上作業

ブロック質量	転置、運搬、据付（陸上連携方式、陸海一貫方式）、横持ち		
	ラフテレーンクレーン	クローラクレーン	ﾄﾗｯｸまたはﾄﾚｰﾗ
4.5t以下	(油)　25　t吊		11積
4.5t超え　7.5t　〃	(〃)　35　〃		11〃
7.5t　〃　12.5t　〃	(〃)　50　〃	―	25〃
12.5t　〃　22.0t　〃	(〃)　50　〃		25〃
22.0t　〃　31.0t　〃		(油)　100　t吊	32〃
31.0t　〃　37.5t　〃		(〃)　150　〃	40〃
37.5t　〃　50.0t　〃	―		50〃
50.0t　〃　70.0t　〃		(〃)　200　〃	60または70〃
70.0t　〃　100.0t　〃			現場条件による

改定（令和８年度）

３－２－５　作業船・機械の組合せ

1）陸上作業

ブロック質量	転置、運搬、据付（陸上連携方式、陸海一貫方式）、横持ち		
	ラフテレーンクレーン	クローラクレーン	ﾄﾗｯｸまたはﾄﾚｰﾗ
4.5t以下	(油)　25　t吊		11t積級
4.5t超え　7.5t　〃	(〃)　35　〃		11　〃
7.5t　〃　12.5t　〃	(〃)　50　〃	―	25　〃
12.5t　〃　22.0t　〃	(〃)　50　〃		25　〃
22.0t　〃　31.0t　〃		(油)　100　t吊	32　〃
31.0t　〃　37.5t　〃		(〃)　150　〃	40　〃
37.5t　〃　50.0t　〃	―		50　〃
50.0t　〃　70.0t　〃		(〃)　200　〃	60または70〃
70.0t　〃　100.0t　〃			現場条件による

コメント

機械器具等損料改定に伴う変更

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

15節 構造物撤去工 P3-15-11

現行（令和７年度）

3）代価表
(1) ブロック撤去(１スイング内)　１日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量 陸上	数量 海上	摘要
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	(油)　t吊	日	1	－	標準運転時間
クレーン付台船または起重機船	t吊 非航旋回 鋼D　t吊	〃	－	1	運6H／就8H
引船	鋼D　PS型	〃	－	1	運2H／就8H
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃			就業8H
とび工		人			
普通作業員		〃			
雑材料					

改定（令和８年度）

3）代価表
(1) ブロック撤去(１スイング内)　１日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量 陸上	数量 海上	摘要
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	(油)　t吊	日	1	－	標準運転時間
クレーン付台船または起重機船	t吊 非航旋回 鋼D　t吊	〃	－	1	運6H／就8H
引船	鋼D　PS型	〃	－	1	運2H／就8H
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃			就業8H
とび工		人			
普通作業員		〃			
雑材料					

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

15節 構造物撤去工 P3-15-14

現行（令和７年度）

3）代価表
(1) ブロック撤去、据付・仮置(海上一連方式)　１日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
クレーン付台船または起重機船	t吊 非航旋回 鋼D　t吊	日	1	運:作業能力／就8H
引船	鋼D　PS型	〃	1	〃
潜水士船	D270PS型　3～5t吊	〃		就業8H
とび工		人		
普通作業員		〃		
雑材料				

改定（令和８年度）

3）代価表
(1) ブロック撤去、据付・仮置(海上一連方式)　１日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
クレーン付台船または起重機船	t吊 非航旋回 鋼D　t吊	日	1	運:作業能力／就8H
引船	鋼D　PS型	〃	1	〃
潜水士船	D320PS型　3～5t吊	〃		就業8H
とび工		人		
普通作業員		〃		
雑材料				

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

15節 構造物撤去工 P3-15-16

現行（令和７年度）

3）代価表
(1) ブロック撤去、据付・仮置(陸上連携方式)　１日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	(油)　t吊	日	1	撤去用 標準運転時間
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	(油)　t吊	〃	1	撤去以外の作業用 標準運転時間
トラックまたはトレーラ	t積	〃		標準運転時間
潜水士船	D270PS型 3~5t吊	〃		就業8H
とび工		人		
普通作業員		〃		
雑材料				

改定（令和８年度）

3）代価表
(1) ブロック撤去、据付・仮置(陸上連携方式)　１日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	(油)　t吊	日	1	撤去用 標準運転時間
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	(油)　t吊	〃	1	撤去以外の作業用 標準運転時間
トラックまたはトレーラ	t積級	〃		標準運転時間
潜水士船	D320PS型 3~5t吊	〃		就業8H
とび工		人		
普通作業員		〃		
雑材料				

コメント

機械器具等損料改定に伴う変更
潜水士船の大型化による基準改定

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>16節 仮設工
P3-16-16</td><td>2）ウォータージェットの規格
(1) ウォータージェットの規格
ウォータージェットの規格は、下表を標準とする。
ウォータージェットの規格
<table><tr><th colspan="3">ウォータージェット／エンジン式</th><th rowspan="2">備　　考</th></tr><tr><th>エンジン出力
kW</th><th>吐 出 圧 力
MPa</th><th>吐出流量
(ℓ/min)</th></tr><tr><td>243</td><td>14.7</td><td>895</td><td></td></tr></table></td><td>2）ウォータージェットの規格
(1) ウォータージェットの規格
ウォータージェットの規格は、下表を標準とする。
ウォータージェットの規格
<table><tr><th colspan="3">ウォータージェット／エンジン式</th><th rowspan="2">備　　考</th></tr><tr><th>エンジン出力
kW</th><th>吐 出 圧 力
MPa</th><th>吐出流量
(ℓ/min)</th></tr><tr><td>250</td><td>14.7</td><td>900</td><td></td></tr></table></td><td>機械器具等損料改定に伴う変更</td></tr>
<tr><td>16節 仮設工
P3-16-17</td><td>３－１－５　パイプロハンマおよびウォータージェットの規格
(4) 水中ポンプおよび水槽
水源が遠い場合、水源から水中ポンプで水槽に給水し、そこからウォータージェットに給水する。
水中ポンプ、水槽の規格・数量
<table><tr><th rowspan="2">ジェット
使用台数</th><th rowspan="2">機　種</th><th rowspan="2">規格</th><th rowspan="2">出 力</th><th rowspan="2">数量</th><th rowspan="2">発動発電機
規　　格</th><th rowspan="2">機　種</th><th rowspan="2">規格</th><th rowspan="2">数量</th><th rowspan="2">備　考</th></tr><tr></tr><tr><td>1　台</td><td rowspan="4">工　事　用
水中ポンプ</td><td>φ150</td><td>10.6kW</td><td>1台</td><td>35 kVA</td><td rowspan="4">水　　槽
(一般
工事用)</td><td>20 ㎥</td><td>1基</td><td rowspan="4">水源が遠い場合に使用する。</td></tr><tr><td>2　台</td><td>φ200</td><td>15.5kW</td><td>1台</td><td>45 kVA</td><td>30 ㎥</td><td>1基</td></tr><tr><td>3　台</td><td>φ150</td><td>10.6kW</td><td>2台</td><td>60 kVA</td><td>20 ㎥</td><td>2基</td></tr><tr><td>4　台</td><td>φ200</td><td>15.5kW</td><td>2台</td><td>75 kVA</td><td>30 ㎥</td><td>2基</td></tr></table>注）1. 現場条件により、水中ポンプの出力(kW)を揚程から選定することができる。
2. 仮設作業構台や桟橋等で、ウォータージェット設置位置の直下に水深１ｍ以上の水源がある場合は、計上しない。なお、この場合には、ウォータージェット付属の水中ポンプで吸水する。
3. 水源の水量が不足し常時給水できない場合は、水槽容量を増すことができる。</td><td>３－１－５　パイプロハンマおよびウォータージェットの規格
(4) 水中ポンプおよび水槽
水源が遠い場合、水源から水中ポンプで水槽に給水し、そこからウォータージェットに給水する。
水中ポンプ、水槽の規格・数量
<table><tr><th rowspan="2">ジェット
使用台数</th><th rowspan="2">機　種</th><th rowspan="2">規格</th><th rowspan="2">出 力</th><th rowspan="2">数量</th><th rowspan="2">発動発電機
規　　格</th><th rowspan="2">機　種</th><th rowspan="2">規格</th><th rowspan="2">数量</th><th rowspan="2">備　考</th></tr><tr></tr><tr><td>1　台</td><td rowspan="4">工　事　用
水中ポンプ</td><td>φ150</td><td>10.6kW</td><td>1台</td><td>35 kVA</td><td rowspan="4">水　　槽
(一般
工事用)</td><td>20 ㎥</td><td>1基</td><td rowspan="4">水源が遠い場合に使用する。</td></tr><tr><td>2　台</td><td>φ200</td><td>15.5kW</td><td>1台</td><td>45 kVA</td><td>32 ㎥</td><td>1基</td></tr><tr><td>3　台</td><td>φ150</td><td>10.6kW</td><td>2台</td><td>60 kVA</td><td>20 ㎥</td><td>2基</td></tr><tr><td>4　台</td><td>φ200</td><td>15.5kW</td><td>2台</td><td>75 kVA</td><td>32 ㎥</td><td>2基</td></tr></table>注）1. 現場条件により、水中ポンプの出力(kW)を揚程から選定することができる。
2. 仮設作業構台や桟橋等で、ウォータージェット設置位置の直下に水深１ｍ以上の水源がある場合は、計上しない。なお、この場合には、ウォータージェット付属の水中ポンプで吸水する。
3. 水源の水量が不足し常時給水できない場合は、水槽容量を増すことができる。</td><td>規格の見直し</td></tr>
<tr><td>16節 仮設工
P3-16-18</td><td>(2) 標準的な船団構成
①クレーン付台船、起重機船の船団構成
<table><tr><th rowspan="2">ハンマ
形　式</th><th colspan="3">標準的な船団構成</th><th colspan="3">現場条件による追加船団</th></tr><tr><th>クレーン付台船
または
起重機船</th><th>台　　船
(運搬用)</th><th>揚錨船</th><th>クレーン付台船
(補助用)</th><th>引　　船</th><th>潜水士船</th></tr><tr><td>バイブロ
ハ ン マ</td><td>t 吊
鋼Ｄ　　t 吊</td><td>鋼　　t積</td><td>鋼Ｄ　　5t吊</td><td>t吊</td><td>鋼Ｄ　　PS型</td><td>Ｄ270PS型
3～5t吊</td></tr></table></td><td>(2) 標準的な船団構成
①クレーン付台船、起重機船の船団構成
<table><tr><th rowspan="2">ハンマ
形　式</th><th colspan="3">標準的な船団構成</th><th colspan="3">現場条件による追加船団</th></tr><tr><th>クレーン付台船
または
起重機船</th><th>台　　船
(運搬用)</th><th>揚錨船</th><th>クレーン付台船
(補助用)</th><th>引　　船</th><th>潜水士船</th></tr><tr><td>バイブロ
ハ ン マ</td><td>t 吊
鋼Ｄ　　t 吊</td><td>鋼　　t積</td><td>鋼Ｄ　　5t吊</td><td>t吊</td><td>鋼Ｄ　　PS型</td><td>Ｄ320PS型
3～5t吊</td></tr></table></td><td>潜水士船の大型化による基準改定</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
16節 仮設工 P3-16-24	５）代価表 （1）鋼管杭・鋼管矢板打設（ジェット併用）　１日（　　本）当り	５）代価表 （1）鋼管杭・鋼管矢板打設（ジェット併用）　１日（　　本）当り	機械器具等損料改定に伴う変更 潜水士船の大型化による基準改定

現行（令和７年度）

名　　称	形状寸法	単位	数　量		摘　　要
			陸上打設	海上打設	
バイブロハンマ	kW	日	1	1	
鋼管チャック	kWﾊﾞｲﾌﾞﾛ用	〃	1	1	
ウォータージェット	243kW	〃			
クローラクレーン	（油）　　t吊	〃	1	－	
クレーン付台船 または 起重機船	t吊 非航旋回　鋼D　t吊	〃	－	1	運6H／就8H
台船	鋼　　t積	〃	－	1	就業8H　　（運搬用）
引船	鋼D　　PS型	〃	－		運2H／就8H
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃	－		就業8H
揚錨船	鋼D　5t吊	〃	－	1	就業8H
クレーン付台船	t吊	〃	－		運4H／就8H（補助用）
クローラクレーン	（油）　　t吊	〃	1	－	
世話役		人			
とび工		〃			
普通作業員		〃			
特殊作業員		〃			
溶接工		〃			（継手用）
発動発電機	排出ｶﾞｽ対策型　kVA	日	1	1	（ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ用）
発動発電機	排出ｶﾞｽ対策型　kVA	〃	1	1	（ｳｫｰﾀｰｼﾞｪｯﾄ付属 水中ポンプ用）
発動発電機	排出ｶﾞｽ対策型　kVA	〃		－	（水槽給水水中ポンプ用）
発動発電機	排出ｶﾞｽ対策型　kVA	〃			（継手用）
溶接機	半自動 500A	〃			（継手用）
水中ポンプ	φ	〃		－	（水槽給水用）
水槽	m^3	〃		－	
配管系部材	埋設する部材	式			
配管系部材	転用する部材	%	20		ｳｫｰﾀｰｼﾞｪｯﾄ損料の％
雑材料					

改定（令和８年度）

名　　称	形状寸法	単位	数　量		摘　　要
			陸上打設	海上打設	
バイブロハンマ	kW	日	1	1	
鋼管チャック	kWﾊﾞｲﾌﾞﾛ用	〃	1	1	
ウォータージェット	250kW	〃			
クローラクレーン	（油）　　t吊	〃	1	－	
クレーン付台船 または 起重機船	t吊 非航旋回　鋼D　t吊	〃	－	1	運6H／就8H
台船	鋼　　t積	〃	－	1	就業8H　　（運搬用）
引船	鋼D　　PS型	〃	－		運2H／就8H
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃	－		就業8H
揚錨船	鋼D　5t吊	〃	－	1	就業8H
クレーン付台船	t吊	〃	－		運4H／就8H（補助用）
クローラクレーン	（油）　　t吊	〃	1	－	
世話役		人			
とび工		〃			
普通作業員		〃			
特殊作業員		〃			
溶接工		〃			（継手用）
発動発電機	排出ｶﾞｽ対策型　kVA	日	1	1	（ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ用）
発動発電機	排出ｶﾞｽ対策型　kVA	〃	1	1	（ｳｫｰﾀｰｼﾞｪｯﾄ付属 水中ポンプ用）
発動発電機	排出ｶﾞｽ対策型　kVA	〃		－	（水槽給水水中ポンプ用）
発動発電機	排出ｶﾞｽ対策型　kVA	〃			（継手用）
溶接機	半自動 500A	〃			（継手用）
水中ポンプ	φ	〃		－	（水槽給水用）
水槽	m^3	〃		－	
配管系部材	埋設する部材	式			
配管系部材	転用する部材	%	20		ｳｫｰﾀｰｼﾞｪｯﾄ損料の％
雑材料					

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

16節 仮設工 P3-16-25

コメント：潜水士船の大型化による基準改定

現行（令和７年度）

(3) クレーン付台船または起重機船拘束　１式当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
クレーン付台船または起重機船	t吊	日		供用
	非航旋回　鋼D　t吊			供用
揚錨船	鋼D　5t吊	〃		供用
台船	鋼　t積	〃		供用、（運搬用）
引船	鋼D　PS型	〃		供用
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃		供用

改定（令和８年度）

(3) クレーン付台船または起重機船拘束　１式当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
クレーン付台船または起重機船	t吊	日		供用
	非航旋回　鋼D　t吊			供用
揚錨船	鋼D　5t吊	〃		供用
台船	鋼　t積	〃		供用、（運搬用）
引船	鋼D　PS型	〃		供用
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃		供用

16節 仮設工 P3-16-29

コメント：潜水士船の大型化による基準改定

現行（令和７年度）

３－２－５－３　作業船舶・機械の選定

１）作業船舶・機械の組合せ

作業船舶・機械の組合せは下表を標準とする。なお、現場条件によりこれにより難い場合は、別途考慮することができる。

船種・機種	バイブロハンマ規格					数量	摘要
	90kW	120kW	150kW	200kW	240kW		
発動発電機	300kVA	400kVA	500kVA	600kVA	800kVA	1	
クレーン付台船または起重機船・杭打船	クレーン付台船または起重機船		起重機船または杭打船			1	
	80ｔ吊	150ｔ吊	150ｔ吊	200ｔ吊	200ｔ吊		
台船	鋼　t積		鋼　t積			1	注）1.
引船	鋼D　PS型		鋼D　PS型			1	
揚錨船	鋼D　5ｔ吊					1	
潜水士船	D270PS型 3～5ｔ吊						注）2.

改定（令和８年度）

３－２－５－３　作業船舶・機械の選定

１）作業船舶・機械の組合せ

作業船舶・機械の組合せは下表を標準とする。なお、現場条件によりこれにより難い場合は、別途考慮することができる。

船種・機種	バイブロハンマ規格					数量	摘要
	90kW	120kW	150kW	200kW	240kW		
発動発電機	300kVA	400kVA	500kVA	600kVA	800kVA	1	
クレーン付台船または起重機船・杭打船	クレーン付台船または起重機船		起重機船または杭打船			1	
	80ｔ吊	150ｔ吊	150ｔ吊	200ｔ吊	200ｔ吊		
台船	鋼　t積		鋼　t積			1	注）1.
引船	鋼D　PS型		鋼D　PS型			1	
揚錨船	鋼D　5ｔ吊					1	
潜水士船	D320PS型 3～5ｔ吊						注）2.

16節 仮設工 P3-16-31

コメント：潜水士船の大型化による基準改定

現行（令和７年度）

４）代価表

(1) 鋼管杭・鋼管矢板打設（バイブロハンマ・海上施工）　１日（　本）当り

名称	形状寸法	単位	数量				摘要
			鋼管杭		鋼管矢板		
			ℓ≦25m	ℓ＞25m	ℓ≦25m	ℓ＞25m	
バイブロハンマ	kW	日	1		1		
鋼管チャック	kWﾊﾞｲﾌﾞﾛ用	〃	1		1		
クレーン付台船または起重機船	t吊	〃	1		1		運6H／就8H
	鋼D　t吊						
台船	鋼　積	〃	1		1		就業8H
引船	鋼D　PS型	〃	1		1		運2H／就8H
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃					就業8H
揚錨船	鋼D 5t吊	〃	1		1		〃
発動発電機	排出ｶﾞｽ対策型 kVA	〃	1		1		
発動発電機	排出ｶﾞｽ対策型 kVA	〃					（継手用）
溶接機	半自動 500A	〃					
世話役		人	1	1	1	1	
とび工		〃	2	4	3	5	
普通作業員		〃	3	3	3	3	
溶接工		〃					
特殊作業員		〃	1	1	1	1	
雑材料							

改定（令和８年度）

４）代価表

(1) 鋼管杭・鋼管矢板打設（バイブロハンマ・海上施工）　１日（　本）当り

名称	形状寸法	単位	数量				摘要
			鋼管杭		鋼管矢板		
			ℓ≦25m	ℓ＞25m	ℓ≦25m	ℓ＞25m	
バイブロハンマ	kW	日	1		1		
鋼管チャック	kWﾊﾞｲﾌﾞﾛ用	〃	1		1		
クレーン付台船または起重機船	t吊	〃	1		1		運6H／就8H
	鋼D　t吊						
台船	鋼　積	〃	1		1		就業8H
引船	鋼D　PS型	〃	1		1		運2H／就8H
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃					就業8H
揚錨船	鋼D 5t吊	〃	1		1		〃
発動発電機	排出ｶﾞｽ対策型 kVA	〃	1		1		
発動発電機	排出ｶﾞｽ対策型 kVA	〃					（継手用）
溶接機	半自動 500A	〃					
世話役		人	1	1	1	1	
とび工		〃	2	4	3	5	
普通作業員		〃	3	3	3	3	
溶接工		〃					
特殊作業員		〃	1	1	1	1	
雑材料							

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>16節 仮設工
参考資料－１
鋼矢板・H形鋼杭打設・引抜(海上施工)
P3-16-(1)</td><td>
２－３　作業船舶の選定
１）作業船舶の機種・規格は次表を標準とするが、現場条件によりこれにより難い場合は、別途考慮することができる。
<table>
<tr><th rowspan="2">船舶・機種</th><th>バイブロハンマ規格
60kWまたは90kW</th><th rowspan="2">数　量</th><th rowspan="2">摘　要</th></tr>
<tr><td></td></tr>
<tr><td>クレーン付台船
または
起重機船</td><td>t吊
非航旋回　鋼D　t吊</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>台船</td><td>鋼　t積</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>引船</td><td>鋼D　PS型</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>潜水士船</td><td>D270PS型　3～5t吊</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>揚錨船</td><td>鋼D　5ｔ吊</td><td>1</td><td></td></tr>
</table>
</td><td>
２－３　作業船舶の選定
１）作業船舶の機種・規格は次表を標準とするが、現場条件によりこれにより難い場合は、別途考慮することができる。
<table>
<tr><th rowspan="2">船舶・機種</th><th>バイブロハンマ規格
60kWまたは90kW</th><th rowspan="2">数　量</th><th rowspan="2">摘　要</th></tr>
<tr><td></td></tr>
<tr><td>クレーン付台船
または
起重機船</td><td>t吊
非航旋回　鋼D　t吊</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>台船</td><td>鋼　t積</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>引船</td><td>鋼D　PS型</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>潜水士船</td><td>D320PS型　3～5t吊</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>揚錨船</td><td>鋼D　5ｔ吊</td><td>1</td><td></td></tr>
</table>
</td><td>潜水士船の大型化による基準改定</td></tr>
<tr><td>16節 仮設工
参考資料－１
鋼矢板・H形鋼杭打設・引抜(海上施工)
P3-16-(4)</td><td>
２）代価表
（1）鋼矢板（H形鋼杭）打設・引抜（バイブロハンマ単独・海上施工）　１日（　枚・本）当り
<table>
<tr><th>名　称</th><th>形状寸法</th><th>単位</th><th>数　量</th><th>摘　要</th></tr>
<tr><td>バイブロハンマ</td><td>kW</td><td>日</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>クレーン付台船
または
起重機船</td><td>t吊
非航旋回　鋼D　t吊</td><td>〃</td><td>1</td><td>運6H／就8H</td></tr>
<tr><td>台船</td><td>鋼　t積</td><td>〃</td><td>1</td><td>就業8H</td></tr>
<tr><td>引船</td><td>鋼D　PS型</td><td>〃</td><td>1</td><td>運2H／就8H</td></tr>
<tr><td>潜水士船</td><td>D270PS型 3～5ｔ吊</td><td>〃</td><td></td><td>就業8H</td></tr>
<tr><td>揚錨船</td><td>鋼D　5ｔ吊</td><td>〃</td><td>1</td><td>〃</td></tr>
<tr><td>世話役</td><td></td><td>人</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>とび工</td><td></td><td>〃</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>普通作業員</td><td></td><td>〃</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>雑材料</td><td></td><td></td><td></td><td>別表のとおり</td></tr>
</table>
注）1.クレーン付台船または起重機船の規格は、現場条件により決定する。
2.溶接作業が必要な場合は、別途計上する。
3.海上施工の場合は、必要に応じ潜水士船を１日計上することができる。

（2）鋼矢板（H形鋼杭）打設（ウォータージェット併用・海上施工）　１日（　枚・本）当り
<table>
<tr><th>名　称</th><th>形状寸法</th><th>単位</th><th>数　量</th><th>摘　要</th></tr>
<tr><td>バイブロハンマ</td><td>kW</td><td>日</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>ウォータージェット</td><td>14.7MPa 、325L/min</td><td>〃</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>クレーン付台船
または
起重機船</td><td>t吊
非航旋回　鋼D　t吊</td><td>〃</td><td>1</td><td>運6H／就8H</td></tr>
<tr><td>台船</td><td>鋼　t積</td><td>〃</td><td>1</td><td>就業8H</td></tr>
<tr><td>引船</td><td>鋼D　PS型</td><td>〃</td><td>1</td><td>運2H／就8H</td></tr>
<tr><td>潜水士船</td><td>D270PS型 3～5ｔ吊</td><td>〃</td><td></td><td>就業8H</td></tr>
<tr><td>揚錨船</td><td>鋼D　5ｔ吊</td><td>〃</td><td>1</td><td>〃</td></tr>
<tr><td>世話役</td><td></td><td>人</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>とび工</td><td></td><td>〃</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>溶接工</td><td></td><td>〃</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>普通作業員</td><td></td><td>〃</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>雑材料</td><td></td><td></td><td></td><td>別表のとおり</td></tr>
</table>
注）1.クレーン付台船または起重機船の規格は、現場条件により決定する。
2.海上施工の場合は、必要に応じ潜水士船を１日計上することができる。
</td><td>
２）代価表
（1）鋼矢板（H形鋼杭）打設・引抜（バイブロハンマ単独・海上施工）　１日（　枚・本）当り
<table>
<tr><th>名　称</th><th>形状寸法</th><th>単位</th><th>数　量</th><th>摘　要</th></tr>
<tr><td>バイブロハンマ</td><td>kW</td><td>日</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>クレーン付台船
または
起重機船</td><td>t吊
非航旋回　鋼D　t吊</td><td>〃</td><td>1</td><td>運6H／就8H</td></tr>
<tr><td>台船</td><td>鋼　t積</td><td>〃</td><td>1</td><td>就業8H</td></tr>
<tr><td>引船</td><td>鋼D　PS型</td><td>〃</td><td>1</td><td>運2H／就8H</td></tr>
<tr><td>潜水士船</td><td>D320PS型 3～5ｔ吊</td><td>〃</td><td></td><td>就業8H</td></tr>
<tr><td>揚錨船</td><td>鋼D　5ｔ吊</td><td>〃</td><td>1</td><td>〃</td></tr>
<tr><td>世話役</td><td></td><td>人</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>とび工</td><td></td><td>〃</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>普通作業員</td><td></td><td>〃</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>雑材料</td><td></td><td></td><td></td><td>別表のとおり</td></tr>
</table>
注）1.クレーン付台船または起重機船の規格は、現場条件により決定する。
2.溶接作業が必要な場合は、別途計上する。
3.海上施工の場合は、必要に応じ潜水士船を１日計上することができる。

（2）鋼矢板（H形鋼杭）打設（ウォータージェット併用・海上施工）　１日（　枚・本）当り
<table>
<tr><th>名　称</th><th>形状寸法</th><th>単位</th><th>数　量</th><th>摘　要</th></tr>
<tr><td>バイブロハンマ</td><td>kW</td><td>日</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>ウォータージェット</td><td>14.7MPa 、325L/min</td><td>〃</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>クレーン付台船
または
起重機船</td><td>t吊
非航旋回　鋼D　t吊</td><td>〃</td><td>1</td><td>運6H／就8H</td></tr>
<tr><td>台船</td><td>鋼　t積</td><td>〃</td><td>1</td><td>就業8H</td></tr>
<tr><td>引船</td><td>鋼D　PS型</td><td>〃</td><td>1</td><td>運2H／就8H</td></tr>
<tr><td>潜水士船</td><td>D320PS型 3～5ｔ吊</td><td>〃</td><td></td><td>就業8H</td></tr>
<tr><td>揚錨船</td><td>鋼D　5ｔ吊</td><td>〃</td><td>1</td><td>〃</td></tr>
<tr><td>世話役</td><td></td><td>人</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>とび工</td><td></td><td>〃</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>溶接工</td><td></td><td>〃</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>普通作業員</td><td></td><td>〃</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>雑材料</td><td></td><td></td><td></td><td>別表のとおり</td></tr>
</table>
注）1.クレーン付台船または起重機船の規格は、現場条件により決定する。
2.海上施工の場合は、必要に応じ潜水士船を１日計上することができる。
</td><td>潜水士船の大型化による基準改定</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

16節 仮設工 参考資料－２ 鋼管杭・鋼管矢板の先行掘削 P3-16-(9)

現行（令和７年度）

3）代価表
(1) 先行掘削 海上 1日（ 本）当り

名称	形状寸法	単位	数量 全回転型 ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ掘削機	数量 二軸同軸式 ｱｰｽｵｰｶﾞ機	摘要
置換材		m³			割増を含む
損耗量	オーガヘッドビット	個	－		
損耗量	ケーシングビット	〃			
掘削機		日	1		運6H／就8H
発動発電機	kVA	〃	－		
油圧式ｽﾊﾟｯﾄﾞ台船（先行掘削用）	800～1000t積 昇降能力 220～240ｔ	〃	1	－	就業8H
杭打船	H－125	〃	－	1	運6H／就8H
台船	鋼 500ｔ積	〃	1		就業8H
引船	鋼D 500PS型	〃	1		運2H／就8H
揚錨船	鋼D 5ｔ吊	〃	1		就業8H
クローラクレーン	（油） 80ｔ吊	〃	1	－	運6H／就8H
バックホウ	排出ガス対策型（第1次基準値）クローラ型 山積0.8m³（平積0.6m³）	〃	－	1	運6H／就8H
世話役		人	1	1	
とび工		〃	2	3	
普通作業員		〃	2	2	
雑材料					

改定（令和８年度）

3）代価表
(1) 先行掘削 海上 1日（ 本）当り

名称	形状寸法	単位	数量 全回転型 ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ掘削機	数量 二軸同軸式 ｱｰｽｵｰｶﾞ機	摘要
置換材		m³			割増を含む
損耗量	オーガヘッドビット	個	－		
損耗量	ケーシングビット	〃			
掘削機		日	1		運6H／就8H
発動発電機	kVA	〃	－		
油圧式ｽﾊﾟｯﾄﾞ台船（先行掘削用）	800～1000t積 昇降能力 220～240ｔ	〃	1	－	就業8H
杭打船	H－125	〃	－	1	運6H／就8H
台船	鋼 500ｔ積	〃	1		就業8H
引船	鋼D 500PS型	〃	1		運2H／就8H
揚錨船	鋼D 5ｔ吊	〃	1		就業8H
クローラクレーン	（油） 80ｔ吊	〃	1	－	運6H／就8H
バックホウ	排出ガス対策型（第3次基準値）クローラ型 0.8m³	〃	－	1	運6H／就8H
世話役		人	1	1	
とび工		〃	2	3	
普通作業員		〃	2	2	
雑材料					

コメント

排出ガス対策型の基準値改定に伴う修正

機械器具等損料改定に伴う変更

17節 雑工 補足資料－１ 雑工 P3-17-(5)

現行（令和７年度）

2）代価表
（1）現場鋼材溶接工
水中被覆アーク溶接 1日当り（ m）

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
消耗品費		%	2	(潜水士船+普通作業員)の%
溶接機	D300A または E300A	日	1	
ラフテレーンクレーン	（油） ｔ吊	〃		標準運転時間
クレーン付台船 または 起重機船	ｔ吊 非航旋回 鋼D ｔ吊	〃		運 4H／就 8H
引船	鋼D PS型	〃		運 2H／就 8H
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃	1	
普通作業員		人	0.5	
雑材料				

改定（令和８年度）

2）代価表
（1）現場鋼材溶接工
水中被覆アーク溶接 1日当り（ m）

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
消耗品費		%	2	(潜水士船+普通作業員)の%
溶接機	D300A または E300A	日	1	
ラフテレーンクレーン	（油） ｔ吊	〃		標準運転時間
クレーン付台船 または 起重機船	ｔ吊 非航旋回 鋼D ｔ吊	〃		運 4H／就 8H
引船	鋼D PS型	〃		運 2H／就 8H
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃	1	
普通作業員		人	0.5	
雑材料				

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>17節 雑工
補足資料－１
雑工
P3-17-(5)</td><td>（２）スタッド溶接
下地処理　1,000個所当り
<table><tr><th>名　称</th><th>形　状　寸　法</th><th>単位</th><th>数　量</th><th>摘　要</th></tr><tr><td>空　気　圧　縮　機</td><td>5.0m³／min</td><td>日</td><td>2.1</td><td></td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン</td><td>（油）　t吊</td><td>〃</td><td></td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>クレーン付台船
または
起　重　機　船</td><td>t吊
非航旋回 鋼D　t吊</td><td>〃</td><td></td><td>運 4H／就 8H</td></tr><tr><td>引　船</td><td>鋼D　PS型</td><td>〃</td><td></td><td>運 2H／就 8H</td></tr><tr><td>潜　水　士　船</td><td>D270PS型 3～5t吊</td><td>〃</td><td>5.4</td><td></td></tr><tr><td>普　通　作　業　員</td><td></td><td>人</td><td>2.2</td><td></td></tr><tr><td>雑　材　料</td><td></td><td>%</td><td>1.0</td><td>ｴｱｰｻﾝﾀﾞｰを含む</td></tr></table></td><td>（２）スタッド溶接
下地処理　1,000個所当り
<table><tr><th>名　称</th><th>形　状　寸　法</th><th>単位</th><th>数　量</th><th>摘　要</th></tr><tr><td>空　気　圧　縮　機</td><td>5.0m³／min</td><td>日</td><td>2.1</td><td></td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン</td><td>（油）　t吊</td><td>〃</td><td></td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>クレーン付台船
または
起　重　機　船</td><td>t吊
非航旋回 鋼D　t吊</td><td>〃</td><td></td><td>運 4H／就 8H</td></tr><tr><td>引　船</td><td>鋼D　PS型</td><td>〃</td><td></td><td>運 2H／就 8H</td></tr><tr><td>潜　水　士　船</td><td>D320PS型 3～5t吊</td><td>〃</td><td>5.4</td><td></td></tr><tr><td>普　通　作　業　員</td><td></td><td>人</td><td>2.2</td><td></td></tr><tr><td>雑　材　料</td><td></td><td>%</td><td>1.0</td><td>ｴｱｰｻﾝﾀﾞｰを含む</td></tr></table></td><td>潜水士船の大型化による基準改定</td></tr>
<tr><td>17節 雑工
補足資料－１
雑工
P3-17-(6)</td><td>水中スタッド溶接　1,000本当り
<table><tr><th>名　称</th><th>形　状　寸　法</th><th>単位</th><th>数量</th><th>摘　要</th></tr><tr><td>スタッドボルト</td><td>φ</td><td>本</td><td>1,000</td><td>ﾌｪﾙｰﾙ(水中用)及び
取付ﾅｯﾄ含む</td></tr><tr><td>スタッド溶接装置</td><td></td><td>日</td><td>4.0</td><td>施工管理計を含む</td></tr><tr><td>発　動　発　電　機</td><td>200KVA</td><td>〃</td><td>4.0</td><td>就業 8H</td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン</td><td>（油）　t吊</td><td>〃</td><td></td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>クレーン付台船
または
起　重　機　船</td><td>t吊
非航旋回 鋼D　t吊</td><td>〃</td><td></td><td>運 4H／就 8H</td></tr><tr><td>引　船</td><td>鋼D　PS型</td><td>〃</td><td></td><td>運 2H／就 8H</td></tr><tr><td>潜　水　士　船</td><td>D270PS型 3～5t吊</td><td>〃</td><td>10.0</td><td></td></tr><tr><td>特　殊　作　業　員</td><td></td><td>人</td><td>2.0</td><td></td></tr><tr><td>普　通　作　業　員</td><td></td><td>〃</td><td>2.0</td><td></td></tr><tr><td>雑　材　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
（３）現場鋼材切断工
水中酸素アーク切断　1日当り（　m）
<table><tr><th>名　称</th><th>形　状　寸　法</th><th>単位</th><th>数量</th><th>摘　要</th></tr><tr><td>器　材　費</td><td></td><td>%</td><td>5</td><td>(潜水士船+普通作業員)の%</td></tr><tr><td>溶　接　機</td><td>D300A または E300A</td><td>日</td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン</td><td>（油）　t吊</td><td>〃</td><td></td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>クレーン付台船
または
起　重　機　船</td><td>t吊
非航旋回 鋼D　t吊</td><td>〃</td><td></td><td>運 4H／就 8H</td></tr><tr><td>引　船</td><td>鋼D　PS型</td><td>〃</td><td></td><td>運 2H／就 8H</td></tr><tr><td>潜　水　士　船</td><td>D270PS型 3～5t吊</td><td>〃</td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>普　通　作　業　員</td><td></td><td>人</td><td>0.5</td><td></td></tr><tr><td>雑　材　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td><td>水中スタッド溶接　1,000本当り
<table><tr><th>名　称</th><th>形　状　寸　法</th><th>単位</th><th>数量</th><th>摘　要</th></tr><tr><td>スタッドボルト</td><td>φ</td><td>本</td><td>1,000</td><td>ﾌｪﾙｰﾙ(水中用)及び
取付ﾅｯﾄ含む</td></tr><tr><td>スタッド溶接装置</td><td></td><td>日</td><td>4.0</td><td>施工管理計を含む</td></tr><tr><td>発　動　発　電　機</td><td>200KVA</td><td>〃</td><td>4.0</td><td>就業 8H</td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン</td><td>（油）　t吊</td><td>〃</td><td></td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>クレーン付台船
または
起　重　機　船</td><td>t吊
非航旋回 鋼D　t吊</td><td>〃</td><td></td><td>運 4H／就 8H</td></tr><tr><td>引　船</td><td>鋼D　PS型</td><td>〃</td><td></td><td>運 2H／就 8H</td></tr><tr><td>潜　水　士　船</td><td>D320PS型 3～5t吊</td><td>〃</td><td>10.0</td><td></td></tr><tr><td>特　殊　作　業　員</td><td></td><td>人</td><td>2.0</td><td></td></tr><tr><td>普　通　作　業　員</td><td></td><td>〃</td><td>2.0</td><td></td></tr><tr><td>雑　材　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
（３）現場鋼材切断工
水中酸素アーク切断　1日当り（　m）
<table><tr><th>名　称</th><th>形　状　寸　法</th><th>単位</th><th>数量</th><th>摘　要</th></tr><tr><td>器　材　費</td><td></td><td>%</td><td>5</td><td>(潜水士船+普通作業員)の%</td></tr><tr><td>溶　接　機</td><td>D300A または E300A</td><td>日</td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン</td><td>（油）　t吊</td><td>〃</td><td></td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>クレーン付台船
または
起　重　機　船</td><td>t吊
非航旋回 鋼D　t吊</td><td>〃</td><td></td><td>運 4H／就 8H</td></tr><tr><td>引　船</td><td>鋼D　PS型</td><td>〃</td><td></td><td>運 2H／就 8H</td></tr><tr><td>潜　水　士　船</td><td>D320PS型 3～5t吊</td><td>〃</td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>普　通　作　業　員</td><td></td><td>人</td><td>0.5</td><td></td></tr><tr><td>雑　材　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td><td>潜水士船の大型化による基準改定</td></tr>
</table>

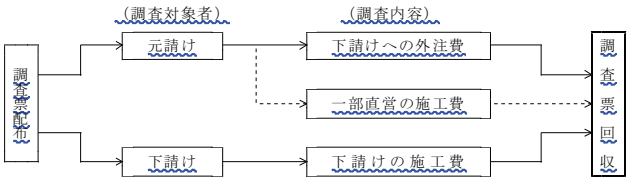
令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
17節 雑工 補足資料－１ 雑工 P3-17-(6)	（４）清掃工 かき落とし　　100㎡当り 名　称 / 形状寸法 / 単位 / 数量 / 摘要 引　船 / 鋼D　PS型 / 日 / / 運 2H／就 8H 台　船 / 鋼　t積 / 〃 / / 就業 8H 潜水士船 / D270PS型 3～5t吊 / 〃 / 7.2 / 普通作業員 / / 人 / 0.5 / 雑材料 / / / /	（４）清掃工 かき落とし　　100㎡当り 名　称 / 形状寸法 / 単位 / 数量 / 摘要 引　船 / 鋼D　PS型 / 日 / / 運 2H／就 8H 台　船 / 鋼　t積 / 〃 / / 就業 8H 潜水士船 / D320PS型 3～5t吊 / 〃 / 7.2 / 普通作業員 / / 人 / 0.5 / 雑材料 / / / /	潜水士船の大型化による基準改定

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>第4章 市場単価等
目次</td><td>１．市場単価の調査方法および決定方法
１－１　市場単価の調査方法 ---------- 4-1-1
１－２　市場単価の決定方法 ---------- 4-1-1
１－３　適用にあたっての主な留意事項 ---------- 4-1-1
１－４　市場単価 ---------- 4-1-1
２．土木工事標準単価 ---------- 4-1-1
３．用語の定義 ---------- 4-1-1
４．市場単価により積算を行う工種 ---------- 4-1-2</td><td>１．適用にあたっての主な留意事項 ---------- 4-1-1
２．市場単価 ---------- 4-1-1
３．土木工事標準単価 ---------- 4-1-1
４．用語の定義 ---------- 4-1-1
５．市場単価により積算を行う工種 ---------- 4-1-2</td><td>記載の見直し
項番号の修正</td></tr>
<tr><td>第4章 市場単価等
P4-1-1</td><td>１．市場単価の調査方法および決定方法
１－１　市場単価の調査方法
１）調査対象工事は調査対象期間に契約したすべての港湾・海岸工事とする。

２）施工費の調査
①調査対象者は、当該工事の元請け業者および下請け業者とする。
②元請けについては、下請け業者に外注した契約内容と外注費を調査する。
なお、元請け業者が一部直営で施工した場合には、元請け業者の施工費も併せて調査する。
③下請けについては、下請け業者が直接的に、施工に要した施工費を調査する。

下図に市場単価調査フローを示す。


１－２　市場単価の決定方法
１）市場単価は、「１－１　市場単価の調査方法」で述べた調査方法に従い調査した元請け業者と下請けの施工業者（専門工事業者）との調査結果より、標準的な施工事例を抽出し、標準市場単価を決定している。
２）標準市場単価を補正する施工規模補正係数についても、調査結果より標準的な施工規模を算定し決定している。

１－３　適用にあたっての主な留意事項
１）離島については、市場単価は適用できない。
２）特異な施工場所または特殊な条件下において、市場単価は適用できない。
３）市場単価は、直接施工に要する直接工事費であり、専門工事業者等に外注する場合の外注経費は含まれない。
４）市場単価には、消費税等相当額（消費税および地方消費税相当分）は含まれない。

１－４　市場単価
本積算基準に適用する標準市場単価は、物価資料の季刊誌に掲載されている単価の平均単価を採用する。ただし、片方の資料のみに掲載されている工種については、掲載されている単価とする。
平均単価の算出時の端数処理は、「第２章　工事費の積算　１節　直接工事費　２－２　材料費　２－２－１　材料単価　１）物価資料による場合」を参照する。また、物価資料の季刊誌に示される補正条件に該当する場合、記載された方法で補正を行う。補正時の端数処理は、小数１位切捨てを標準とする。なお、鉄筋加工組立については単位をｔからｋｇへ変換して採用していることから、小数３位切捨てとする。

２．土木工事標準単価
土木工事標準単価は、物価資料の季刊誌に掲載されている平均単価（小数１位四捨五入）とし、片方の資料のみに掲載されている単価は、当該単価とする。なお、補正時の端数処理は小数４位四捨五入とする。

３．用語の定義
「物価資料の季刊誌」とは、（一財）経済調査会発行の「土木施工単価」および（一財）建設物価調査会発行の「土木コスト情報」をいう。</td><td>１．適用にあたっての主な留意事項
１）離島については、市場単価は適用できない。
２）特異な施工場所または特殊な条件下において、市場単価は適用できない。
３）市場単価は、直接施工に要する直接工事費であり、専門工事業者等に外注する場合の外注経費は含まれない。
４）市場単価には、消費税等相当額（消費税および地方消費税相当分）は含まれない。

２．市場単価
本積算基準に適用する標準市場単価は、物価資料の季刊誌に掲載されている単価の平均単価を採用する。ただし、片方の資料のみに掲載されている工種については、掲載されている単価とする。
平均単価の算出時の端数処理は、「第２章　工事費の積算　１節　直接工事費　２－２　材料費　２－２－１　材料単価　１）物価資料による場合」を参照する。また、物価資料の季刊誌に示される補正条件に該当する場合、記載された方法で補正を行う。補正時の端数処理は、小数１位切捨てを標準とする。なお、鉄筋加工組立については単位をｔからｋｇへ変換して採用していることから、小数３位切捨てとする。

３．土木工事標準単価
土木工事標準単価は、物価資料の季刊誌に掲載されている平均単価（小数１位四捨五入）とし、片方の資料のみに掲載されている単価は、当該単価とする。なお、補正時の端数処理は小数４位四捨五入とする。

４．用語の定義
「物価資料の季刊誌」とは、（一財）経済調査会発行の「土木施工単価」および（一財）建設物価調査会発行の「土木コスト情報」をいう。</td><td>記載の見直し
項番号の修正</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	コメント
第4章 市場単価等 P4-1-2	**4．市場単価により積算を行う工種** 本積算基準における市場単価は下記の○印の工種を対象とし、これ以外の工種については適用できない。	

市場単価適用工種一覧

項　目	底面工	マット工	支保工	足場工 足枠組	足場工 内足場	鉄筋工	吊鉄筋工	型枠工	コンクリート打設工	止水板工	上蓋工	異形ブロック製作 型枠工	異形ブロック製作 コンクリート打設工	目地工	伸縮	取付工	係船柱	防舷材	取付工	車止・縁金物 取付工	係船柱・防舷材・車止撤去工	防食工	電気	目地工	防砂	防止工	吸出し	塗装工	港湾構造物	被覆工	ペトロラタム	溶接工	現場鋼材	切断工	現場鋼材	かき落とし工	汚濁防止膜工	汚濁防止枠工	灯浮標設置撤去工	サンドドレーン工	サンドコンパクションパイル工	構造物とりこわし工
3節　基礎工																																										
・基礎ブロック製作	○			○		○	○	○	○																																	
4節　本体工																																										
4.1 ケーソン式																																										
・ケーソン製作	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																	
・ケーソン進水据付工										○	○																															
・蓋コンクリート									○																																	
・蓋ブロック製作	○					○	○	○	○																																	
4.2 ブロック式						※1 鉄筋工、吊鉄筋工は「土木工事市場単価・鉄筋工(一般構造物)」を適用する。																																						
・方塊製作	○			○		○	○	○	○																																	
・セルラーブロック製作	○			○	○	○	○	○	○																																	
・L型ブロック製作	○			○		○	○	○	○																																	
・蓋コンクリート									○																																	
・蓋ブロック製作	○					○	○	○	○																																	
・直立消波ブロック製作						○※1	○※1					○	○																													
4.3　場所打式																																										
・場所打コンクリート				○		○		○	○					○																												
・水中コンクリート				○																																					
4.4　捨石式・捨ブロック式						※1 鉄筋工、吊鉄筋工は「土木工事市場単価・鉄筋工(一般構造物)」を適用する。																																						
・捨ブロック製作						○※1	○※1					○	○																													
4.5　鋼矢板式																																										
・鋼矢板切断																																			○							
4.6　鋼杭式																																										
・鋼杭切断																																			○							
5節　被覆・根固工						※1 鉄筋工、吊鉄筋工は「土木工事市場単価・鉄筋工(一般構造物)」を適用する。																																						
・被覆ブロック製作						○※1	○※1					○	○																													
・根固ブロック製作	○			○		○	○	○	○																																	
6節　上部工																																										
・上部コンクリート(重力・鋼矢板式)			○	○		○		○	○					○																											
・上部コンクリート(桟橋式)						○			○					○																												
・現場鋼材溶接																																○										
7節　付属工																																										
・係船柱基礎コンクリート									○																																	
・係船柱・架台取付																○											○														
・埋込栓・防舷材・梯子取付																		○																							
・車止・縁金物取付・塗装																				○							○														
・取付金具製作･取付、陽極･電位測定装置取付																							○																		
8節　消波工						※1 鉄筋工、吊鉄筋工は「土木工事市場単価・鉄筋工(一般構造物)」を適用する。																																						
・異形ブロック製作						○※1	○※1					○	○																													
9節　裏込・裏埋工																																										
・防砂目地板取付																								○																		
・防砂シート敷設																										○																
11節　陸上地盤改良工																				※2 サンドドレーン工、サンドコンパクションパイル工は「土木工事市場単価・軟弱地盤処理工」による。																						
・サンドドレーン																																							○※2		
・サンドコンパクションパイル																																								○※2	
14節　維持補修工																																										
・係船柱・車止・縁金物塗替																												○													
・取付金具製作・取付、陽極取付																							○																		
・下地処理（かき落とし）																																			○							
・ペトロラタム被覆																														○					○							
15節　構造物撤去工																																※3 構造物とりこわし工は「土木工事標準単価」による。											○※3
・構造物取壊し																																									
・係船柱撤去																						○																			
・防舷材撤去																						○																		
・車止撤去																						○																		
17節　雑工																																										
・現場鋼材溶接・切断																																○			○							
・清掃																																				○						
共通仮設費																																										
4節事業損失防止施設費																																										
・汚濁防止膜設置・撤去・移設																																					○						
・汚濁防止枠設置・撤去																																						○				
5節 安全費																																										
・灯浮標設置撤去																																							○			

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	改定（令和８年度）	コメント
第4章 市場単価等 P4-1-2	**5．市場単価により積算を行う工種** 本積算基準における市場単価は下記の○印の工種を対象とし、これ以外の工種については適用できない。	一覧表の見直し

市場単価適用工種一覧

項　目	底面工	マット工	支保工	足場工 足枠組	足場工 内足場	鉄筋工	吊鉄筋工	型枠工	コンクリート打設工	止水板工	上蓋工	異形ブロック製作 型枠工	異形ブロック製作 コンクリート打設工	目地伸縮工	係船柱取付工	防舷材取付工	車止・縁金物取付工	係船柱防舷材・車止撤去工	電食防止工	目地砂防工	吸出し防止工	港湾構造物塗装工	ペトロラタム被覆工	現場鋼材溶接工	現場鋼材切断工	かき落とし工	汚濁防止膜工	汚濁防止枠工	灯浮標設置撤去工			構造物とりこわし工
3節　基礎工																															
・基礎ブロック製作	○			○		○	○	○	○																						
4節　本体工																															
4.1 ケーソン式																															
・ケーソン製作	○	○	○	○	○	○	○	○	○																						
・ケーソン進水据付工										○	○																				
・蓋コンクリート									○																						
・蓋ブロック製作	○					○	○	○	○																						
4.2 ブロック式																															
・方塊製作	○			○		○	○	○	○																						
・セルラーブロック製作	○			○	○	○	○	○	○																						
・L型ブロック製作	○			○		○	○	○	○																						
・蓋コンクリート									○																						
・蓋ブロック製作	○					○	○	○	○																						
・直立消波ブロック製作												○	○																		
4.3　場所打式																															
・場所打コンクリート				○		○		○	○					○																	
・水中コンクリート				○																											
4.4　捨石式・捨ブロック式																															
・捨ブロック製作												○	○																		
4.5　鋼矢板式																															
・鋼矢板切断																									○						
4.6　鋼杭式																															
・鋼杭切断																									○						
5節　被覆・根固工																															
・被覆ブロック製作												○	○																		
・根固ブロック製作	○			○		○	○	○	○																						
6節　上部工																															
・上部コンクリート(重力・鋼矢板式)			○	○		○		○	○					○																	
・上部コンクリート(桟橋式)						○			○					○																	
・現場鋼材溶接																								○							
7節　付属工																															
・係船柱基礎コンクリート				○		○		○	○																						
・係船柱・架台取付・係船柱塗装															○							○									
・埋込栓・防舷材・梯子取付																○															
・車止・縁金物取付・塗装																	○					○									
・取付金具製作･取付、陽極･電位測定装置取付																			○												
8節　消波工																															
・異形ブロック製作												○	○																		
9節　裏込・裏埋工																															
・防砂目地板取付																				○											
・防砂シート敷設																					○										
14節　維持補修工																															
・係船柱・車止・縁金物塗替																						○									
・取付金具製作・取付、陽極取付																			○												
・下地処理（かき落とし）																										○					
・ペトロラタム被覆																							○			○					
15節　構造物撤去工																															構造物とりこわし工は「土木工事標準単価」による。
・構造物取壊し																															○
・係船柱撤去																		○													
・防舷材撤去																		○													
・車止撤去																		○													
17節　雑工																															
・現場鋼材溶接・切断																								○	○						
・清掃																										○					
共通仮設費																															
4節事業損失防止施設費																															
・汚濁防止膜設置・撤去・移設																											○				
・汚濁防止枠設置・撤去																												○			
5節 安全費																															
・灯浮標設置撤去																													○		

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
第4章 市場単価等 補足資料－１ 市場単価 P4-1-(2)	**２．足場架払（ブロック）** 鋼製枠組足場払い　100㎡当り 名称 / 形状寸法 / 単位 / 数量（方塊 / セルラーﾌﾞﾛｯｸ Ｌ型ﾌﾞﾛｯｸ） / 摘要 クローラクレーン または ラフテレーンクレーン　（油）　ｔ吊　日　0.3　0.3　標準運転時間を採用する 世話役　人　0.6　0.5 型枠工　〃　1.4　1.2 普通作業員　〃　3.6　4.2 足場賃料　㎡　100　100　建枠、筋違い、取付布枠等 雑材料 注）1.本表は陸上施工に適用する。なお、海上施工(フローティングドック等による施工)については別途決定する。 2.クレーンの機種・規格は現場条件により決定する。 3.コンクリート運搬の施工方式がクレーン類による場合については、クレーンの機種・規格はコンクリート運搬による。 4.足場賃料単価は次式による。 各使用材料賃料＝１枚（本、個）１日当り賃料×ｄ＋１枚（本、個）当り基本料 ｄ：足場供用日数(日)　（小数１位切り捨て） （足場の供用日数は基本日数の合計に搬入･搬出を加えた日数とする。） 5.足場使用材料は、**「積算基準　6節　上部工　2-7-3　足場」**の足場使用材料を準用する。 内足場架払い　100㎡当り 名称 / 形状寸法 / 単位 / 数量 / 摘要 クローラクレーン または ラフテレーンクレーン　（油）　ｔ吊　日　0.3　標準運転時間を採用する 世話役　人　0.4 型枠工　〃　1.1 普通作業員　〃　2.1 足場賃料　㎡　100 雑材料 注）1.本表はセルラーブロックのみ適用する。 2.クレーンの機種・規格は現場条件により決定する。 3.コンクリート運搬の施工方式がクレーン類による場合 については、クレーンの機種・規格はコンクリート運搬による。	**２．足場架払（ブロック）** 鋼製枠組足場架払　100㎡当り 名称 / 形状寸法 / 単位 / 数量（方塊 / セルラーﾌﾞﾛｯｸ Ｌ型ﾌﾞﾛｯｸ） / 摘要 クローラクレーン または ラフテレーンクレーン　（油）　ｔ吊　日　0.3　0.3　標準運転時間を採用する 世話役　人　0.6　0.5 型枠工　〃　1.4　1.2 普通作業員　〃　3.6　4.2 足場賃料　㎡　100　100　建枠、筋違い、取付布枠等 雑材料 注）1.本表は陸上施工に適用する。なお、海上施工(フローティングドック等による施工)については別途決定する。 2.クレーンの機種・規格は現場条件により決定する。 3.コンクリート運搬の施工方式がクレーン類による場合については、クレーンの機種・規格はコンクリート運搬による。 4.足場賃料単価は次式による。 各使用材料賃料＝１枚（本、個）１日当り賃料×ｄ＋１枚（本、個）当り基本料 ｄ：足場供用日数(日)　（小数１位切り捨て） （足場の供用日数は基本日数の合計に搬入･搬出を加えた日数とする。） 5.足場使用材料は、**「積算基準　6節　上部工　2-7-3　足場」**の足場使用材料を準用する。 内足場架払　100㎡当り 名称 / 形状寸法 / 単位 / 数量 / 摘要 クローラクレーン または ラフテレーンクレーン　（油）　ｔ吊　日　0.3　標準運転時間を採用する 世話役　人　0.4 型枠工　〃　1.1 普通作業員　〃　2.1 足場賃料　㎡　100 雑材料 注）1.本表はセルラーブロックのみ適用する。 2.クレーンの機種・規格は現場条件により決定する。 3.コンクリート運搬の施工方式がクレーン類による場合 については、クレーンの機種・規格はコンクリート運搬による。	誤植の修正

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>第4章 市場単価等
補足資料－１
市場単価
P4-1-(3)</td><td>

補足資料－１　市場単価

４．汚濁防止膜工

汚濁防止膜設置　　120m当り

名　称	形状寸法	単位	数量	摘　要
ラフテレーンクレーン	(油)25t吊	日	0.5	標準運転時間
クレーン付台船	35～40t吊	〃	0.7	運6H/就8H
引船	鋼D 300PS型	〃	0.5	〃
潜水士船	D270PS型 3~5t吊	〃	0.8	就業8H
普通作業員		人	8.6	
雑材料				

注）1.アンカーブロック製作は、別途計上する。
　　2.アンカーブロック設置等の費用を含む。

汚濁防止膜撤去　　120m当り

名　称	形状寸法	単位	数量	摘　要
ラフテレーンクレーン	(油)25t吊	日	0.5	標準運転時間
クレーン付台船	35～40t吊	〃	0.7	運6H/就8H
引船	鋼D 300PS型	〃	0.5	〃
潜水士船	D270PS型 3~5t吊	〃	0.8	就業8H
普通作業員		人	6.3	
雑材料				

注)アンカーブロック撤去等の費用を含む。

汚濁防止膜移設　　120m当り

名　称	形状寸法	単位	数量	摘　要
クレーン付台船	35～40t吊	日	0.7	運6H/就8H
引船	鋼D 300PS型	〃	0.5	〃
潜水士船	D270PS型 3~5t吊	〃	0.8	就業8H
普通作業員		人	5.6	
雑材料				

注)アンカーブロック移設等の費用を含む。

</td><td>

補足資料－１　市場単価

４．汚濁防止膜工

汚濁防止膜設置　　120m当り

名　称	形状寸法	単位	数量	摘　要
ラフテレーンクレーン	(油)25t吊	日	0.5	標準運転時間
クレーン付台船	35～40t吊	〃	0.7	運6H/就8H
引船	鋼D 300PS型	〃	0.5	〃
潜水士船	D320PS型 3~5t吊	〃	0.8	就業8H
普通作業員		人	8.6	
雑材料				

注）1.アンカーブロック製作は、別途計上する。
　　2.アンカーブロック設置等の費用を含む。

汚濁防止膜撤去　　120m当り

名　称	形状寸法	単位	数量	摘　要
ラフテレーンクレーン	(油)25t吊	日	0.5	標準運転時間
クレーン付台船	35～40t吊	〃	0.7	運6H/就8H
引船	鋼D 300PS型	〃	0.5	〃
潜水士船	D320PS型 3~5t吊	〃	0.8	就業8H
普通作業員		人	6.3	
雑材料				

注)アンカーブロック撤去等の費用を含む。

汚濁防止膜移設　　120m当り

名　称	形状寸法	単位	数量	摘　要
クレーン付台船	35～40t吊	日	0.7	運6H/就8H
引船	鋼D 300PS型	〃	0.5	〃
潜水士船	D320PS型 3~5t吊	〃	0.8	就業8H
普通作業員		人	5.6	
雑材料				

注)アンカーブロック移設等の費用を含む。

</td><td>潜水士船の大型化による基準改定</td></tr>
<tr><td>第4章 市場単価等
補足資料－１
市場単価
P4-1-(4)</td><td>

６．灯浮標設置（撤去）

灯浮標設置（撤去）　　個当り

名　称	形状寸法	単位	数量	摘　要
クレーン付台船	35～40t吊	日		運　H／就8H
引船	鋼D 300PS型	〃		〃
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃		就業8H
とび工		人		
普通作業員		〃		
雑材料				

注）1.設置、撤去及び移設を行う場合は各々の費用を計上する。
　　2.灯浮標とシンカーを同時に設置・撤去を行う場合で、シンカー重量が大きく、歩掛の作業船規格では作業できないと判断した場合のクレーン付台船及び引船の規格については、**「４節　本体工　４．２ブロック式　３．本体ブロック据付工　３－１－４作業船・機械の組合せ」**による。

</td><td>

６．灯浮標設置（撤去）

灯浮標設置（撤去）　　個当り

名　称	形状寸法	単位	数量	摘　要
クレーン付台船	35～40t吊	日		運　H／就8H
引船	鋼D 300PS型	〃		〃
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃		就業8H
とび工		人		
普通作業員		〃		
雑材料				

注）1.設置、撤去及び移設を行う場合は各々の費用を計上する。
　　2.灯浮標とシンカーを同時に設置・撤去を行う場合で、シンカー重量が大きく、歩掛の作業船規格では作業できないと判断した場合のクレーン付台船及び引船の規格については、**「４節　本体工　４．２ブロック式　３．本体ブロック据付工　３－１－４作業船・機械の組合せ」**による。

</td><td>潜水士船の大型化による基準改定</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲載頁

第5章 間接工事費
の施工歩掛　共通仮設費
1節 回航・えい航費
P5-1-5

現行（令和７年度）

２－２－４　回航用引船の選定

１）回航用引船と被回航船舶の組合せ

回航用引船と被回航船舶の組合せ表

回航用引船（PS型）	被えい航船舶									
	土運船（1隻引）（m³）	土運船（2隻引）（m³）	台船（1隻引）（t積）	クレーン付台船（t吊）	フローティングドック（t積）	コンクリートミキサー船 バッチ式（m³）	コンクリートミキサー船 コンティニアス式（型）	深層混合処理船（㎡）	排砂管設備 フロータ 長(m)、径(mm	排砂管設備 排砂管 長(m)、径(mm)
鋼D 350			100							
〃 450			200							
〃 500	300		300	40						
〃 600		300								
〃 800			500	50			25		4.5×1,100	6.0×560
〃 1,000	650			150	1,500					
〃 1,200		650								
〃 1,500			2,000		2,500	1.0	45			
〃 2,000	1,300				3,200	1.5	90	2.2		
〃 2,500		1,300							5.0×1,300 ～1,500	6.0×660 ～760
〃 3,000						2.5		4.6		
〃 4,000					7,000			5.7		

注）1. 上記組合せ表にない大型船舶の回航用引船規格は、現場条件を考慮して決定する。
2. 起重機船（固定）の2,000t吊を超え3,000t吊までは、引船4,000PS型と3,000PS型の２隻引きとする。
起重機船（固定）の3,000t吊を超え3,700t吊までは、引船4,000PS型2隻と3,000PS型の3隻引きとする。
3. 被回航船舶等の規格範囲の表示がないものについては（まで）と読み取るものとする。

改定（令和８年度）

２－２－４　回航用引船の選定

１）回航用引船と被回航船舶の組合せ

回航用引船と被回航船舶の組合せ表

回航用引船（PS型）	被えい航船舶									
	ガットバージ（m³）	土運船（m³）	台船（t積）	クレーン付台船（t吊）	フローティングドック（t積）	コンクリートミキサー船 バッチ式（m³）	コンクリートミキサー船 コンティニアス式（型）	深層混合処理船（㎡）	排砂管設備 フロータ 長(m)、径(mm	排砂管設備 排砂管 長(m)、径(mm)
鋼D 350			100							
〃 450			200							
〃 500		300	300	40						
〃 600										
〃 800			500	50			25		4.5×1,100	6.0×560
〃 1,000	1,000	650		150	1,500					
〃 1,200										
〃 1,500			2,000		2,500	1.0	45			
〃 2,000		1,300			3,200	1.5	90	2.2		
〃 2,500									5.0×1,300 ～1,500	6.0×660 ～760
〃 3,000						2.5		4.6		
〃 4,000					7,000			5.7		

注）1. 上記組合せ表にない大型船舶の回航用引船規格は、現場条件を考慮して決定する。
2. 起重機船（固定）の2,000t吊を超え3,000t吊までは、引船4,000PS型と3,000PS型の２隻引きとする。
起重機船（固定）の3,000t吊を超え3,700t吊までは、引船4,000PS型2隻と3,000PS型の3隻引きとする。
3. 被回航船舶等の規格範囲の表示がないものについては（まで）と読み取るものとする。
4. 土運船の回航において、引船1隻で土運船2隻以上を回航する場合は別途考慮する。

コメント

実態調査による改定

掲載頁

1節 回航・えい航費
P5-1-8

現行（令和７年度）

２－３－２　運転費の算出

②自力回航船舶の乗組員数は**「単価表」**の内訳数量による。
ただし、潜水士船の乗組員数は、**「潜水士船歩掛表」**によるものとする。

潜水士船歩掛表

作業船名	規格	乗組員（人） 潜水世話役	潜水士	潜水連絡員	潜水送気員	摘要
潜水士船	D 270PS型 3～5t吊	0.2	1.0	1.0	1.0	単独潜水方式
		0.2	2.0	1.0	1.0	２人潜水方式（交互）

改定（令和８年度）

２－３－２　運転費の算出

②自力回航船舶の乗組員数は**「単価表」**の内訳数量による。
ただし、潜水士船の乗組員数は、**「潜水士船歩掛表」**によるものとする

潜水士船歩掛表

作業船名	規格	乗組員（人） 潜水世話役	潜水士	潜水連絡員	潜水送気員	摘要
潜水士船	D 320PS型 3～5t吊	0.2	1.0	1.0	1.0	単独潜水方式
		0.2	2.0	1.0	1.0	２人潜水方式（交互）

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

掲載頁

1節 回航・えい航費
P5-1-13

現行（令和７年度）

２－３－６　旅費等の算出

③鉄道賃等
鉄道賃等は、その乗車に要する運賃（特急料金等を含む）を計上する。

改定（令和８年度）

２－３－６　旅費等の算出

③鉄道賃等
鉄道賃等は、その乗車に要する運賃（特急料金等を含む）を計上する。
なお、複数の経路がある場合、以下イ～ホのいずれかに該当する経路の鉄道賃等を計上することができる。
イ．最も安価な経路
ロ．最も安価な経路に比べて、移動時間の短縮が可能である経路
ハ．最も安価な経路に比べて、乗換回数が少ない等、交通の遅延等による経路変更や取消・変更料の発生の危険性が低い経路
ニ．最も安価な経路が航空機を用いない経路である場合において、最も安価な経路によると出発地から用務先までの旅行時間に4時間程度以上を要するときの、航空機を用いる経路
ホ．最も安価な経路では日帰りができない場合において、日帰りが可能となる経路

コメント

記載内容の追記

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲載頁：1節 回航・えい航費　P5-1-16

現行（令和７年度）

３－２－４　えい航用引船の選定

１）えい航用引船と被えい航船舶の組合せ

注）1.土運船、台船については、引船1隻で2隻までえい航できる。
2.上記組合せ表にない大型船舶のえい航用引船規格は、現場条件を考慮して決定する。
3.被えい航船舶等の規格範囲の表示がないものについては（まで）と読み取るものとする。
4.起重機船（固定）の3,000t吊を超え3,700t吊までは、引船4,000PS型と4,000PS型の2隻引きとする。

改定（令和８年度）

３－２－４　えい航用引船の選定

１）えい航用引船と被えい航船舶の組合せ

注）1.土運船、台船のえい航において、引船1隻で土運船または台船2隻以上をえい航する場合は別途考慮する。
2.上記組合せ表にない大型船舶のえい航用引船規格は、現場条件を考慮して決定する。
3.被えい航船舶等の規格範囲の表示がないものについては（まで）と読み取るものとする。
4.起重機船（固定）の3,000t吊を超え3,700t吊までは、引船4,000PS型と4,000PS型の2隻引きとする。

コメント

実態調査による改定

掲載頁：1節 回航・えい航費　付属資料－３ 総トン数一覧表　P5-1-(5)

現行（令和７年度）

１．被回航船舶総トン数一覧表

被回航船舶	規格	標準形状 (L) (B) (D)	総トン数 (t)	摘要
ポンプ浚渫船	鋼D 1,350PS型	36.0×11.2×2.7	380	
	〃 2,250 〃	44.0×13.4×3.3	690	
	〃 3,200 〃	50.0×15.0×3.8	1,000	
	〃 4,000 〃	54.0×16.0×4.0	1,200	
	〃 6,000 〃	64.0×17.5×4.4	1,700	
	〃 8,000 〃	72.0×19.0×4.8	2,300	
ﾊﾞｰｼﾞｱﾝﾛｰﾀﾞ船	鋼D 420PS型	27.0× 9.0×2.4	210	
	〃 1,000 〃	33.0×10.5×2.6	320	
	〃 1,600 〃	39.0×11.5×2.8	440	
	〃 2,000 〃	43.0×12.5×3.0	570	
	〃 2,500 〃	48.0×13.5×3.1	710	
空気圧送船	鋼D 2,000PS型	35.0×22.0×2.5	680	
	〃 3,000 〃	50.0×25.0×3.0	1,320	
	〃 6,000 〃	60.0×25.0×3.8	2,010	
グラブ浚渫船（普通地盤用）	鋼D 2.5m³	23.0×10.0×2.2	180	
	〃 5.0〃	30.0×13.2×2.7	380	
	〃 9.0〃	42.0×18.5×3.5	1,000	
	〃 15.0〃	50.0×21.0×3.9	1,450	
	〃 23.0〃	56.0×23.5×4.5	2,100	
グラブ浚渫船（硬土盤用）	鋼D 3.5m³	30.0×13.2×2.7	380	
	〃 5.5〃	42.0×18.5×3.5	1,000	
	〃 7.5〃	50.0×21.0×3.9	1,450	
	〃 11.5〃	56.0×23.5×4.5	2,100	
グラブ浚渫船（岩盤用）	鋼D 3.5m³	30.0×13.2×2.7	380	
	〃 5.5〃	42.0×18.5×3.5	1,000	
	〃 7.5〃	50.0×21.0×3.9	1,450	
ﾊﾞｯｸﾎｳ浚渫船	鋼D 1.0m³	20.0× 8.9×1.8	110	
	〃 2.0〃	24.0×10.4×2.1	190	
起重機船（非航旋回）	鋼D 40t吊	27.3×12.4×2.3	270	
	〃 50〃	29.5×13.4×2.5	350	
	〃 70〃	33.0×15.0×2.8	490	
	〃 80〃	34.5×15.8×2.9	560	
	〃 100〃	37.0×16.8×3.1	680	
	〃 120〃	39.5×18.0×3.3	830	
	〃 150〃	43.0×20.0×3.4	1,000	
	〃 200〃	47.1×21.6×3.8	1,400	
	〃 250〃	50.8×23.3×4.1	1,700	
起重機船（非航固定）	鋼DE 300t吊	50.0×22.7×4.1	1,600	
	〃 500〃	60.0×27.3×5.0	2,900	
	〃 1,400〃	85.0×36.0×6.0	9,400	
	〃 2,000〃	88.0×40.0×7.2	8,900	
	〃 2,200〃	90.4×41.1×7.4	9,700	
	〃 3,000〃	100.0×45.5×8.3	13,000	
杭打船	H－65	26.0×13.0×2.6	310	
	〃 －125	36.0×18.0×3.6	820	
	〃 －150	46.0×19.0×3.6	1,070	

改定（令和８年度）

１．被回航船舶総トン数一覧表

被回航船舶	規格	標準形状 (L) (B) (D)	総トン数 (t)	摘要
ポンプ浚渫船	鋼D 1,350PS型	36.0×11.2×2.7	380	
	〃 2,250 〃	44.0×13.4×3.3	690	
	〃 3,200 〃	50.0×15.0×3.8	1,000	
	〃 4,000 〃	54.0×16.0×4.0	1,200	
	〃 6,000 〃	64.0×17.5×4.4	1,700	
	〃 8,000 〃	72.0×19.0×4.8	2,300	
ﾊﾞｰｼﾞｱﾝﾛｰﾀﾞ船	鋼D 420PS型	27.0× 9.0×2.4	210	
	〃 1,000 〃	33.0×10.5×2.6	320	
	〃 1,600 〃	39.0×11.5×2.8	440	
	〃 2,000 〃	43.0×12.5×3.0	570	
	〃 2,500 〃	48.0×13.5×3.1	710	
空気圧送船	鋼D 2,000PS型	35.0×22.0×2.5	680	
	〃 3,000 〃	50.0×25.0×3.0	1,320	
	〃 6,000 〃	60.0×25.0×3.8	2,010	
グラブ浚渫船（普通地盤用）	鋼D 2.5m³	23.0×10.0×2.2	180	
	〃 5.0〃	30.0×13.2×2.7	380	
	〃 9.0〃	42.0×18.5×3.5	1,000	
	〃 15.0〃	50.0×21.0×3.9	1,450	
	〃 23.0〃	56.0×23.5×4.5	2,100	
グラブ浚渫船（硬土盤用）	鋼D 3.5m³	30.0×13.2×2.7	380	
	〃 5.5〃	42.0×18.5×3.5	1,000	
	〃 7.5〃	50.0×21.0×3.9	1,450	
	〃 11.5〃	56.0×23.5×4.5	2,100	
グラブ浚渫船（岩盤用）	鋼D 3.5m³	30.0×13.2×2.7	380	
	〃 5.5〃	42.0×18.5×3.5	1,000	
	〃 7.5〃	50.0×21.0×3.9	1,450	
ﾊﾞｯｸﾎｳ浚渫船	鋼D 1.0m³	20.0× 8.9×1.8	110	
	〃 2.0〃	24.0×10.4×2.1	190	
起重機船（非航旋回）	鋼D 40t吊	27.3×12.4×2.3	270	
	〃 50〃	29.5×13.4×2.5	350	
	〃 70〃	33.0×15.0×2.8	490	
	〃 80〃	34.5×15.8×2.9	560	
	〃 100〃	37.0×16.8×3.1	680	
	〃 120〃	39.5×18.0×3.3	830	
	〃 150〃	43.0×20.0×3.4	1,000	
	〃 200〃	47.1×21.6×3.8	1,400	
	〃 250〃	50.8×23.3×4.1	1,700	
起重機船（非航固定）	鋼DE 300t吊	50.0×22.7×4.1	1,600	
	〃 500〃	60.0×27.3×5.0	2,900	
	〃 1,400〃	85.0×36.0×6.0	9,400	
	〃 3,000〃	100.0×45.5×8.3	13,000	
	鋼DH 2,200t吊	90.0×41.0×7.0	14,600	
杭打船	H－65	26.0×13.0×2.6	310	
	〃 －125	36.0×18.0×3.6	820	
	〃 －150	46.0×19.0×3.6	1,070	

コメント

起重機船（非航固定）DE2,000t吊、DE2,200t吊が現存しないため削除

DH2,200t吊の設定

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>2節 運搬費
P5-2-7</td><td>表３．２　建設機械運搬方法
<table><tr><th rowspan="2">機　械　名</th><th rowspan="2">規　格</th><th colspan="2">車　載</th><th rowspan="2">備　考</th></tr><tr><th>車種</th><th>機械質量（t）</th></tr><tr><td>路面切削機（ホイール式・廃材積込装置付）</td><td>2.0m</td><td>R</td><td>28.50</td><td></td></tr><tr><td>スタビライザ（路床改良用）</td><td>深0.6m　幅2.0m</td><td>R</td><td>23.00</td><td></td></tr><tr><td>スタビライザ（路床改良用）</td><td>深1.2m　幅2.0m</td><td>R</td><td>24.70</td><td></td></tr><tr><td>自走式破砕機</td><td>クラッシャー寸法
開　450㎜
幅　925㎜</td><td>R</td><td>30.00</td><td></td></tr><tr><td>油圧式杭圧入引抜機（硬質地盤専用）</td><td>鋼矢板Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型用</td><td>R</td><td>29.70</td><td></td></tr><tr><td>バックホウ（超ロングアーム型）</td><td>山積0.4㎥／平積0.3㎥</td><td>R</td><td>22.00</td><td></td></tr></table>注）1．車載のＲはトレーラである。
2．本表に掲載のある建設機械については、分解・組立の必要はない。</td><td>表３．２　建設機械運搬方法
<table><tr><th rowspan="2">機　械　名</th><th rowspan="2">規　格</th><th colspan="2">車　載</th><th rowspan="2">備　考</th></tr><tr><th>車種</th><th>機械質量（t）</th></tr><tr><td>路面切削機（ホイール式・廃材積込装置付）</td><td>2.0m</td><td>R</td><td>28.50
(27.00)</td><td>()内は排ガス対策型(2014年規制)の場合の機械質量</td></tr><tr><td>スタビライザ（路床改良用）</td><td>深0.6m　幅2.0m</td><td>R</td><td>23.00</td><td></td></tr><tr><td>スタビライザ（路床改良用）</td><td>深1.2m　幅2.0m</td><td>R</td><td>24.70</td><td></td></tr><tr><td>自走式破砕機</td><td>クラッシャー寸法
開　450㎜
幅　925㎜</td><td>R</td><td>30.00</td><td></td></tr><tr><td>油圧式杭圧入引抜機（硬質地盤専用）</td><td>鋼矢板Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型用</td><td>R</td><td>29.70</td><td></td></tr><tr><td>バックホウ（超ロングアーム型）</td><td>山積0.4㎥／平積0.3㎥</td><td>R</td><td>22.00</td><td></td></tr></table>注）1．車載のＲはトレーラである。
2．本表に掲載のある建設機械については、分解・組立の必要はない。</td><td>機械質量の追記</td></tr>
<tr><td>5節 安全費
P5-5-3</td><td>２－３－２　施工歩掛
１）灯浮標・標識灯の損料算出
灯浮標・標識灯損料＝(供用日数＋搬入･搬出日数[2日])×１日当り供用損料額×灯浮標・標識灯基数

注）供用日数とは、設置から撤去までの日数とし、日数の端数処理は少数１位切り上げとする。</td><td>２－３－２　施工歩掛
１）灯浮標・標識灯の損料算出
灯浮標・標識灯損料＝(供用日数＋搬入･搬出日数[2日])×１日当り供用損料額×灯浮標・標識灯基数

注）供用日数とは、設置から撤去までの日数とし、日数の端数処理は小数１位切り上げとする。</td><td>誤植の修正</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>第3部 その他の積算基準
第1編 設計等業務
目次</td><td>１節　計画・開発・調査等業務

２－１　積算価格構成の内訳
２－１－１　直接原価 ---------- 1-1-2
２－１－２　その他原価 ---------- 1-1-2
２－１－３　一般管理費等 ---------- 1-1-2</td><td>１節　計画・開発・調査等業務

２－１　積算価格構成の内訳
２－１－１　直接原価 ---------- 1-1-2
２－１－２　間接原価 ---------- 1-1-2
２－１－３　一般管理費等 ---------- 1-1-2</td><td>記載の見直し</td></tr>
<tr><td>1節 計画・開発・調査等業務
P1-1-5</td><td>２－５　旅費の算定

(5) 鉄道賃等
鉄道賃等は、その乗車に要する運賃（特急料金等を含む）を計上する</td><td>２－５　旅費の算定

(5) 鉄道賃等
鉄道賃等は、その乗車に要する運賃（特急料金等を含む）を計上する
なお、複数の経路がある場合、以下イ～ホのいずれかに該当する経路の鉄道賃等を計上することができる。
イ．最も安価な経路
ロ．最も安価な経路に比べて、移動時間の短縮が可能である経路
ハ．最も安価な経路に比べて、乗換回数が少ない等、交通の遅延等による経路変更や取消・変更料の発生の危険性が低い経路
ニ．最も安価な経路が航空機を用いない経路である場合において、最も安価な経路によると出発地から用務先までの旅行時間に4時間程度以上を要するときの、航空機を用いる経路
ホ．最も安価な経路では日帰りができない場合において、日帰りが可能となる経路</td><td>記載内容の追記</td></tr>
<tr><td>参考資料-1 予備設計
P1-(5)</td><td>１－７－４　波浪変形計算

（１）波向線法、高山法等による場合　　１ケース当り
<table><tr><th>区　分</th><th>単位</th><th>技師(A)</th><th>技師(B)</th><th>技師(C)</th><th>技術員</th><th>摘　要</th></tr><tr><td>屈折（波向線法）</td><td>人</td><td></td><td>0.5</td><td>0.5</td><td>0.5</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>港内静穏度解析（高山法）</td><td>〃</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>1.5</td></tr><tr><td>浅水、砕波、ﾘｰﾌ、隅角</td><td>〃</td><td></td><td>0.5</td><td>0.5</td><td>0.5</td></tr></table></td><td>１－７－４　波浪変形計算

（１）波向線法、高山法等による場合　　１ケース当り
<table><tr><th>区　分</th><th>単位</th><th>技師(A)</th><th>技師(B)</th><th>技師(C)</th><th>技術員</th><th>摘　要</th></tr><tr><td>屈折（波向線法）</td><td>人</td><td></td><td>0.5</td><td>0.5</td><td>0.5</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>回折（高山法）</td><td>〃</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>1.5</td></tr><tr><td>浅水、砕波、ﾘｰﾌ、隅角</td><td>〃</td><td></td><td>0.5</td><td>0.5</td><td>0.5</td></tr></table></td><td>記載の見直し</td></tr>
<tr><td>参考資料-3 細部設計
P1-(23)</td><td>３－４　数量計算等

2)堤頭函
ケーソン堤頭函は、堤頭側側壁に波力が作用するため、外壁においては堤頭側と基部側配筋が異なる。
基部側と堤頭側の各々で作図が必要となる。同様に底版の配筋においても左右対称とならないため、上及び下側の配筋作図版数は、各々底版の版数が必要となる。</td><td>３－４　数量計算等

2)堤頭函
ケーソン堤頭函は、堤頭側側壁に波力が作用するため、外壁においては堤頭側と基部側で配筋が異なり
基部側と堤頭側の各々で作図が必要となる。同様に底版の配筋においても左右対称とならないため、上及び下側の配筋作図版数は、各々底版の版数が必要となる。</td><td>記載の見直し</td></tr>
<tr><td>参考資料-6 港内静穏度（エネルギー平衡方程式及びブシネスクモデル）
P1-(35)</td><td>６－１　適用範囲
本項は、港湾事業および海岸事業の港内静穏度（エネルギー平衡方程式及びブシネスクモデル）の検討調査に適用する。</td><td>６－１　適用範囲
本項は、港湾事業および海岸事業の港内静穏度（エネルギー平衡方程式及びブシネスクモデル）の検討調査に適用する。なお、これらの計算手法によらない場合は、別途見積により計上する。</td><td>適用範囲の追記</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr>
<td>参考資料-8　数値波動水槽(CADMAS-SURF)（2次元）
P1-(45)</td>
<td>

８－３　積算フロー

８－４　数量計算等

業務内容に応じたケース数の算定方法は、以下のとおりとする。

<table>
<tr><th>細　別
（レベル４）</th><th>積算要素
（レベル６）</th><th>ケース数の算定方法</th></tr>
<tr><td>モデルの設定</td><td>モデル化された海底地形の設定</td><td>海底地形</td></tr>
<tr><td rowspan="3">作用波の検定</td><td>規則波の場合</td><td rowspan="3">海底地形×潮位×波浪(津波)</td></tr>
<tr><td>不規則波の場合</td></tr>
<tr><td>津波の場合</td></tr>
<tr><td rowspan="5">数値解析の実施</td><td>規則波の場合</td><td rowspan="3">海底地形×構造物断面×潮位×波浪(津波)</td></tr>
<tr><td>不規則波の場合</td></tr>
<tr><td>津波の場合</td></tr>
<tr><td>解析結果の整理</td><td>整理する項目数</td></tr>
<tr><td>解析結果の分析</td><td>分析する項目数</td></tr>
</table>

</td>
<td>

８－３　積算フロー

（１）計　画　準　備：業務を行うに当って事前に業務の目的および内容を把握し、業務の手順および遂行に必要な事項を企画立案する。

（２）協　議　・　報　告：打合せ・報告を行うもので、協議・報告の回数を対象とする。

（３）資料収集・整理：波浪（津波）、潮位、海底地形（水深）等の自然条件、その他解析に必要な条件に関する資料を収集・整理する。

（４）モデルの設定：数値波動水槽(CADMAS-SURF)を用いて、作用波等の解析を行う上で必要なモデル設定およびパラメーターの設定を行う。

・数値波動水槽(CADMAS-SURF)モデル設定：対象構造物の作用波圧（波力）、反射・伝播波性能、越波流量等の計算、分析をするための計算領域や計算格子等のモデル設定を行う。
・モデル化された海底地形の設定：海底地形を確認し、構造物前面における波（津波）の変形を再現できるようにモデル化を行う。
・計算パラメーターの設定：造波モデル、差分方法、乱流モデル、減衰帯の特性値、消波ブロック等の多孔質体抵抗値等の必要な解析パラメータの設定を行う。

（５）作用波の検定：構造物を配置しない状態で、シミュレーションに用いる入射波、潮位、海底地形を用いて、構造物設置位置で目標とした作用波（規則波・不規則波・津波）となっているか検定を行う。

（６）構造物・計測点の設定：設計図等から形状寸法を確認した上で、形状を再現したモデル化を行い、計算格子状に配置する。
目的に応じて、水位・流速・波圧・越波量等の計測点（モニタリング位置）の設定を行う。

（７）数値解析の実施：設定した計算条件、解析モデルに基づき、数値解析を実施し、解析結果を出力整理、分析を行う。

（８）照　　査：業務内容についての一切の照査を行う。

（９）成　　果　　物：業務目的、内容、結果について報告書を執筆しチェックを行う。

８－４　数量計算等

業務内容に応じたケース数の算定方法は、以下のとおりとする。

<table>
<tr><th>細　別
（レベル４）</th><th>積算要素
（レベル６）</th><th>ケース数の算定方法</th></tr>
<tr><td>モデルの設定</td><td>モデル化された海底地形の設定</td><td>海底地形</td></tr>
<tr><td rowspan="3">作用波の検定</td><td>規則波の場合</td><td rowspan="3">海底地形×潮位×波浪(津波)</td></tr>
<tr><td>不規則波の場合</td></tr>
<tr><td>津波の場合</td></tr>
<tr><td>構造物・計測点の設定</td><td>計算格子上への構造物の設定</td><td>構造物の断面数</td></tr>
<tr><td rowspan="5">数値解析の実施</td><td>規則波の場合</td><td rowspan="3">海底地形×構造物断面×潮位×波浪(津波)</td></tr>
<tr><td>不規則波の場合</td></tr>
<tr><td>津波の場合</td></tr>
<tr><td>解析結果の整理</td><td>整理する項目数</td></tr>
<tr><td>解析結果の分析</td><td>分析する項目数</td></tr>
</table>

</td>
<td>記載内容の追記</td>
</tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>第2編 測量・調査等業務
1節 測量業務
P2-1-8</td><td>

３－２－２　機材運搬

機材運搬（２往復当り）　１式当り

名　　称	形状寸法	単　位	数　量	摘　　要
測量補助員		人	2	
トラック	２ｔ積	日		標準運転時間
雑　材　料		%	1	

</td><td>

３－２－２　機材運搬

機材運搬（２往復当り）　１式当り

名　　称	形状寸法	単　位	数　量	摘　　要
測量補助員		人	2	
トラック	２ｔ積級	日		標準運転時間
雑　材　料		%	1	

</td><td>機械器具等損料改定に伴う変更</td></tr>
<tr><td>1節 測量業務
P2-1-20</td><td>

４－１－４　数量計算等

細　別（レベル４）	積算要素（レベル６）	内　容	単位	数　位	摘　要
測量準備	測量準備		式	１位止めを原則とする。ただし、数量がkm単位のものは、小数３位四捨五入とする。	四捨五入
	機材運搬		〃		
基準点測量	踏査	踏査距離	km		
	設標	設標点数	点		
	測角・測距	観測数	〃		
	整理計算	整理点数	〃		
	主要基準点設置	原点設置数	〃		
	補助基準点設置	原点設置数	〃		
水深測量	検潮基準測定		式		
	検潮	測定日数	日		
	検潮資料整理	測定日数	〃		
	艤装テスト		式		
	音響測深	総延長	km		
	レッド測深	実測線延長	〃		
関連調査	底質判別	調査地点数	点		
	浮泥層調査	調査地点数	〃		
	岸線測量	測量延長	km		
	岸線測量資料整理	海岸線長図上	cm		
成　果	報告書作成	実測線延長	〃		
	業務成果品		式		
協議・報告	事前協議		回		
	中間報告		〃		
	最終報告		〃		

</td><td>

４－１－４　数量計算等

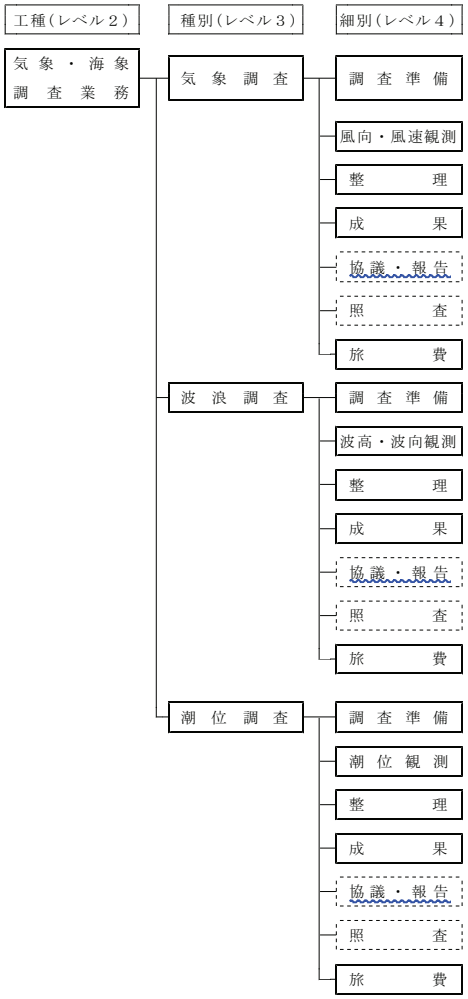
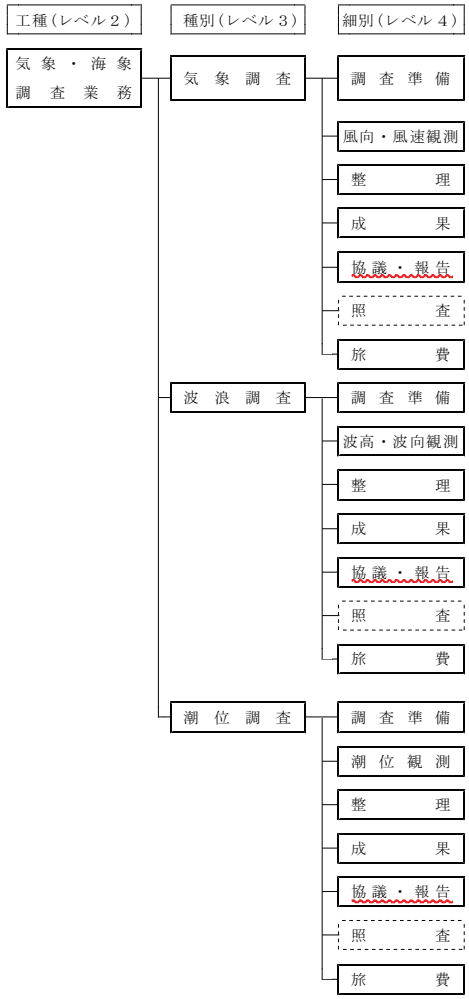
細　別（レベル４）	積算要素（レベル６）	内　容	単位	数　位	摘　要
測量準備	測量準備		式	１位止めを原則とする。ただし、数量がkm単位のものは、小数３位四捨五入とする。	四捨五入
	機材運搬		〃		
基準点測量	踏査	踏査距離	km		
	設標	設標点数	点		
	測角・測距	観測数	〃		
	整理計算	整理点数	〃		
	主要基準点設置	原点設置数	〃		
	補助基準点設置	原点設置数	〃		
水深測量	検潮基準測定		式		
	検潮	測定日数	日		
	検潮資料整理	測定日数	〃		
	艤装テスト		式		
	音響測深	総延長	km		
	レッド測深	実測線延長	〃		
関連調査	底質判別	調査地点数	点		
	浮泥層調査	調査地点数	〃		
	岸線測量	測量延長	km		
	岸線測量資料整理	海岸線長図上	cm		
成　果	報告書作成	実測線延長	km		
	業務成果品		式		
協議・報告	事前協議		回		
	中間報告		〃		
	最終報告		〃		

</td><td>誤植の修正</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>5節 磁気探査業務
P2-5-6</td><td>(2) 代価表
機材運搬（２往復当り）　１式当り
<table><tr><th>名　　称</th><th>形 状 寸 法</th><th>単　位</th><th>数　　量</th><th>摘　　要</th></tr><tr><td>測 量 補 助 員</td><td></td><td>人</td><td>4</td><td></td></tr><tr><td>ト　ラ　ッ　ク</td><td>11t積</td><td>日</td><td></td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン</td><td>(油)25t吊</td><td>〃</td><td>2</td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>雑　　材　　料</td><td></td><td>%</td><td>0.5</td><td></td></tr></table></td><td>(2) 代価表
機材運搬（２往復当り）　１式当り
<table><tr><th>名　　称</th><th>形 状 寸 法</th><th>単　位</th><th>数　　量</th><th>摘　　要</th></tr><tr><td>測 量 補 助 員</td><td></td><td>人</td><td>4</td><td></td></tr><tr><td>ト　ラ　ッ　ク</td><td>11t積級</td><td>日</td><td></td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン</td><td>(油)25t吊</td><td>〃</td><td>2</td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>雑　　材　　料</td><td></td><td>%</td><td>0.5</td><td></td></tr></table></td><td>機械器具等損料改定に伴う変更</td></tr>
<tr><td>6節 潜水探査業務
P2-6-6</td><td>３－３　潜水探査
潜水探査　　１日当り（　　m²）
<table><tr><th rowspan="2">名　　称</th><th rowspan="2">形 状 寸 法</th><th rowspan="2">単位</th><th colspan="2">数　量</th><th rowspan="2">摘　　要</th></tr><tr><th>単独潜水方式</th><th>2人潜水方式(交互)</th></tr><tr><td>① 潜 水 士 船</td><td>D270PS型 3～5t吊</td><td>日</td><td>1</td><td>－</td><td>就業8H</td></tr><tr><td>② 潜 水 士 船</td><td>D270PS型 3～5t吊</td><td>日</td><td>－</td><td>1</td><td>就業8H</td></tr><tr><td>機 雷 探 査 機</td><td>潜水式　20型</td><td>〃</td><td colspan="2">1</td><td>損料</td></tr><tr><td>雑　　材　　料</td><td></td><td>%</td><td colspan="2">3</td><td>ジェットポンプ損料を含む</td></tr></table></td><td>３－３　潜水探査
潜水探査　　１日当り（　　m²）
<table><tr><th rowspan="2">名　　称</th><th rowspan="2">形 状 寸 法</th><th rowspan="2">単位</th><th colspan="2">数　量</th><th rowspan="2">摘　　要</th></tr><tr><th>単独潜水方式</th><th>2人潜水方式(交互)</th></tr><tr><td>① 潜 水 士 船</td><td>D320PS型 3～5t吊</td><td>日</td><td>1</td><td>－</td><td>就業8H</td></tr><tr><td>② 潜 水 士 船</td><td>D320PS型 3～5t吊</td><td>日</td><td>－</td><td>1</td><td>就業8H</td></tr><tr><td>機 雷 探 査 機</td><td>潜水式　20型</td><td>〃</td><td colspan="2">1</td><td>損料</td></tr><tr><td>雑　　材　　料</td><td></td><td>%</td><td colspan="2">3</td><td>ジェットポンプ損料を含む</td></tr></table></td><td>潜水士船の大型化による基準改定</td></tr>
<tr><td>8節 海象観測装置定期点検・保守業務
P2-8-6</td><td>３－２－３　機材運搬
機材運搬　　１式当り
<table><tr><th>名　　称</th><th>形状寸法</th><th>単位</th><th>数　　量</th><th>摘　　要</th></tr><tr><td>ト ラ ッ ク</td><td>2t積</td><td>日</td><td></td><td>標準運転時間</td></tr></table></td><td>３－２－３　機材運搬
機材運搬　　１式当り
<table><tr><th>名　　称</th><th>形状寸法</th><th>単位</th><th>数　　量</th><th>摘　　要</th></tr><tr><td>ト ラ ッ ク</td><td>2t積級</td><td>日</td><td></td><td>標準運転時間</td></tr></table></td><td>機械器具等損料改定に伴う変更</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
8節 海象観測装置定期点検・保守業務 参考資料-1 気象・海象調査 P2-(5)	**３．気象・海象調査** **３－１　積算ツリー**  注）　：本節で取扱う調査歩掛 ：調査条件を勘案し別途積算する調査歩掛（未制定歩掛）	**３．気象・海象調査** **３－１　積算ツリー**  ：本節で取扱う調査歩掛 ：調査条件を勘案し別途積算する調査歩掛（未制定歩掛）	歩掛の追加に伴う改定

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
8節 海象観測装置定期点検・保守業務 参考資料-1 気象・海象調査 P2-(6)	**３－２　数量計算等** (3) 集計数量	**３－２　数量計算等** (3) 集計数量	歩掛の追加に伴う改定

現行（令和７年度）

種別（レベル３））	細別（レベル４）	積算要素（レベル６）	単位	数量	摘要
気象調査	調査準備				
		観測機器整備	回		
		交通車	〃		片道 km 基地 —— 観測所
	風向・風速観測				
	整理	風向・風速観測	日		観測点検回数　回
		風向・風速整理	回		
		〃　年間整理	ヶ月		
波浪調査	調査準備				
		観測機器整備	回		
		交通車	〃		片道 km 基地 —— 観測所
	波高・波向観測				
	整理	波高観測	日		観測点検回数　回
		波向観測	日		観測点検回数　回
		波高整理	回		
		波高年間整理	ヶ月		
		波向写真ネガ整理	〃		ﾚｰﾀﾞｰ式のみ計上する
		波向解析整理	回		
		波向年間整理	ヶ月		
潮位調査	調査準備				
		観測機器整備	回		
		交通車	〃		片道 km 基地 —— 観測所
	潮位観測				
	整理	潮位観測	日		観測点検回数　回
		潮位整理	回		
		潮位年間整理	ヶ月		

改定（令和８年度）

種別（レベル３））	細別（レベル４）	積算要素（レベル６）	単位	数量	摘要
気象調査	調査準備				
		観測機器整備	回		
		交通車	〃		片道 km 基地 —— 観測所
	風向・風速観測				
	整理	風向・風速観測	日		観測点検回数　回
		風向・風速整理	回		
		〃　年間整理	ヶ月		
	協議・報告	事前協議	回		
		最終報告	〃		
波浪調査	調査準備				
		観測機器整備	回		
		交通車	〃		片道 km 基地 —— 観測所
	波高・波向観測				
	整理	波高観測	日		観測点検回数　回
		波向観測	日		観測点検回数　回
		波高整理	回		
		波高年間整理	ヶ月		
		波向写真ネガ整理	〃		ﾚｰﾀﾞｰ式のみ計上する
		波向解析整理	回		
		波向年間整理	ヶ月		
	協議・報告	事前協議	回		
		最終報告	〃		
潮位調査	調査準備				
		観測機器整備	回		
		交通車	〃		片道 km 基地 —— 観測所
	潮位観測				
	整理	潮位観測	日		観測点検回数　回
		潮位整理	回		
		潮位年間整理	ヶ月		
	協議・報告	事前協議	回		
		最終報告	〃		

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>8節 海象観測装置定期点検・保守業務
参考資料-1 気象・海象調査
P2-(13)</td><td></td><td>３－６　協議・報告
３－６－１　事前協議
調査を実施するに当り、実施計画について協議を行う。
事前協議　1回当り
<table><tr><th>名　称</th><th>形状寸法</th><th>単　位</th><th>数　量</th><th>摘　要</th></tr><tr><td>主任技師</td><td>測　量</td><td>人</td><td>1.0</td><td></td></tr><tr><td>技　師</td><td>〃</td><td>〃</td><td>1.0</td><td></td></tr></table>３－６－２　最終報告
調査結果について報告を行う。
最終報告　1回当り
<table><tr><th>名　称</th><th>形状寸法</th><th>単　位</th><th>数　量</th><th>摘　要</th></tr><tr><td>主任技師</td><td>測　量</td><td>人</td><td>1.0</td><td></td></tr><tr><td>技　師</td><td>〃</td><td>〃</td><td>1.0</td><td></td></tr></table>※その他打合せが必要な場合は、必要に応じて計上する。</td><td>歩掛の追加に伴う改定</td></tr>
<tr><td></td><td>３－６　旅　費
旅費については、「第１編　１節、２－５　旅費の算定」を適用して算出する。</td><td>３－７　旅　費
旅費については、「第１編　１節、２－５　旅費の算定」を適用して算出する。</td><td>項番号の修正</td></tr>
<tr><td>第3編 土質調査業務
1節 土質調査業務
P3-1-23</td><td>３－10　運　搬
(2) 機材運搬
機材の運搬はクレーン付トラックによることを原則とする。なお、足場の運搬費は別途考慮する。
①機材運搬におけるクレーン付トラック規格
<table><tr><th>ボーリングマシン台数</th><th>規　格</th></tr><tr><td>１　～　３　台</td><td>４ｔ積　（２ｔ吊）</td></tr></table>注）４台以上については、別途計上する。</td><td>３－10　運　搬
(2) 機材運搬
機材の運搬はクレーン付トラックによることを原則とする。なお、足場の運搬費は別途考慮する。
①機材運搬におけるクレーン付トラック規格
<table><tr><th>ボーリングマシン台数</th><th>規　格</th></tr><tr><td>１　～　３　台</td><td>４ｔ積級　（２ｔ吊）</td></tr></table>注）４台以上については、別途計上する。</td><td>機械器具等損料改定に伴う変更</td></tr>
</table>